

令和7年度
中井町教育委員会
点検・評価報告書



里都まち ♥ なかい

令和8年6月

目 次

| | | |
|---|-----|----|
| 中井の教育 | ・・・ | 1 |
| 中井町教育委員会の組織 | ・・・ | 6 |
| 教育委員会点検・評価 | ・・・ | 7 |
| 令和7年度中井町教育委員会の 事務の管理及び執行状況に関する点検・評価の方針 | ・・・ | 7 |
| 点検・評価の構成 | ・・・ | 8 |
| 1 教育委員会の活動状況点検・評価 | ・・・ | 9 |
| 教育委員会の活動状況に対する外部評価者意見 | ・・・ | 14 |
| 2 教育委員会事務局の活動状況点検・評価 | ・・・ | 15 |
| 学校教育に対する教育委員による評価 | ・・・ | 24 |
| 社会教育に対する教育委員による評価 | ・・・ | 38 |
| 教育委員会事務局の活動状況に対する外部評価者意見 | ・・・ | 39 |
| 3 本年度の主要事業についての点検・評価 | ・・・ | 45 |
| 主要事業についての外部評価者意見 | ・・・ | 47 |

教育の目的は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民を育成するところにある。

今の子どもたちが社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新による人工知能（AI）の飛躍的な進化等、予測が困難な時代を迎えることになる。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎え、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

学習指導要領においても、一人一人の幼児・児童・生徒が、将来にわたって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることを掲げている。

こうした世の中の情勢を踏まえるとともに、次世代を担う子どもたちが、「里都まちなかい」を愛し、誇りをもって学び続けることができるよう、中井町教育委員会では、「第六次 中井町総合計画 後期基本計画」の実現に向けて、「中井町教育大綱」に基づき、鋭意取り組み、教育の目的の達成を目指し努めていく。

教育目標

【学校教育】

『時代を拓き、未来を生き抜く中井っ子』

- ① 心と体を鍛え、たくましく生き抜く中井っ子の育成
- ② 自ら学び、創造性や向上心に富む中井っ子の育成
- ③ 自立心と責任感に溢れ、規範意識のある中井っ子の育成
- ④ 自分に誇りを持ち、優しさの溢れる中井っ子の育成
- ⑤ 故郷中井を愛し、国際感覚を身につけた中井っ子の育成

【社会教育】

『故郷に生き、学び続ける中井人』

- ① 公共の精神に満ち、より良い町づくりをめざす中井人
- ② 自己実現をめざし、進んで学び教養を高める中井人
- ③ 元気に働き、健康で明るい生活を築く中井人
- ④ 生命や人権を尊重し、互いに支え合う中井人
- ⑤ 郷土の歴史・伝統・文化・自然に親しみ、町の発展をめざす中井人

本年度の主な施策

【学校教育】

1 「確かな学力」を育む教育の充実

- ① 中井町の授業づくりの基本として設定した「なかい授業づくりスタンダード（「学習課題」と「まとめ」「振り返り」のある授業）に基づき、授業改善を充実させるため、各教科等の特質に応じて、ICTを効果的に活用した問題解決的な展開の授業の実施、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の適切な場面設定など、子どもたちが学びや変容を自覚できる授業づくりを工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める。
- ② 質の高い魅力ある授業をとおして、子ども一人一人の学習意欲の向上を図るとともに、基本的な学習習慣の確立、基礎・基本事項の確実な定着、読書活動の推進に努める。

- ③ 学習の基盤となる資質・能力（言語能力・情報活用能力・問題発見解決能力等）の育成に向け、教科等横断的な学習の充実、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの確立に努める。
- ④ 園・小・中の学びの連続性を意識した一貫性のある教育の推進のため、相互連携を深める。

2 「豊かな心」を育む教育の充実

- ① 全教育活動を通して、人権尊重の精神を態度や行動に結びつけることができるよう、人権意識を育む教育の充実に努める。
- ② 全教育活動を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、道徳教育の推進に努める。道徳科の授業研究や道徳教育の研修により、人権意識を高め、指導力向上に努める。
- ③ 「いのち」のかけがえのなさや、夢や希望をもって生きること、人への思いやり、互いに支え合って生きることの大切さを実感する「いのちの授業」の推進に努める。
- ④ いじめ、不登校、問題行動等への対応のため、園・学校にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを派遣し、教育相談コーディネーターと連携しながら教育相談体制の充実に努める。また、家庭や教育支援センター、関係機関との連携を図り、いじめや不登校等の未然防止、早期発見、適切な対応に取り組み、「魅力ある学校づくり」に努める。

3 「健やかな体」を育む教育の充実

- ① 健康で活力ある生活を送るため、幼児・児童・生徒が健康3原則（食事・運動・睡眠）」を意識しながら、規則正しい生活習慣を確立できるよう、家庭や地域と連携した取組に努める。
- ② 健康・体力づくりに向け、定期健康診断や体力テスト等の結果を活用しながら、幼児・児童・生徒が自らの健康や体力に関心をもち、積極的に運動やスポーツに親しむ態度の育成に努める。
- ③ 学校における食育の推進や献立委員会、食育担当者会議等を通して、食育の充実に努めるとともに、給食費を無償にすることにより家庭の経済的負担を軽減する。

4 国際社会で活躍できる人材の育成

- ① 学習指導要領に基づき、国際社会を生き抜く力を養い、国際社会で活躍できる人材を育成していくため、英語教育の充実に努める。小・中学校では、外国語指導助手の活用を一層進め、外国語活動・外国語科の充実を図るとともに、国際理解教育の推進を図る。こども園では、楽しい英語遊びの活動の充実に努める。
- ② 主体的に英語を使って、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成し、日常的に英語に触れるような機会をつくり、子どもたちが主体的に英語を使ってコミュニケーションをとれる場面を増やしていくなど、国際社会で活かせるコミュニケーション力の素地を育む英語教育の推進に努める。

5 情報社会を生きる児童・生徒の育成

- ① 小学校では、プログラミング教育を展開し、プログラミングの体験を通じた論理的思考力の育成を目指すとともに、それらを中学校における各教科につなげていく。
- ② 教員がICT機器を児童・生徒の学びに合わせて効果的に利活用するために、ニーズに応じた教員研修を実施し、指導計画及びICT年間活用計画に基づいた授業づくりの推進を図る。

- ③ GIGAスクール構想の実現を図るため、児童・生徒一人一人がICT端末を効果的に活用できる授業体制を整え「情報活用能力」を身に付けるための授業づくりや教材研究を進めていく。

6 教員の資質向上・支援の推進

- ① 園・学校の校内研究会における学校訪問において、教員の指導力向上につながる指導助言に努める。授業づくり委員会等において、園・学校の研究推進委員との連携を図り、研究会の活性化を推進する。
- ② 園・学校の実態に応じた働き方改革を推進し、教員が子どもと向き合える体制づくりと、ワークライフバランスを実現した職場環境により、全ての教員が能力を最大限に発揮できるように努める。
- ③ 校内事故防止会議及び教職員の服務についての研修を充実し、綱紀の保持の徹底を図る。

7 「地域とともにある学校づくり」の推進

- ① 地域の人的・物的資源を活かし、地域の人々が学校の教育活動に参加・協力したり、子どもたちが地域活動に参加・協力したりするなど、地域との相互交流の充実を図る。
- ② 「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、学校評価や地域学校支援ボランティア制度、教育委員会だより等を活用し、学校・地域・家庭が連携・協働していく「地域とともにある学校づくり」の推進に努める。
- ③ 小学校から中学校までの9年間を通した「目指す子ども像」を、学校、保護者及び地域住民が共有し、協働することにより、「地域とともにある学校づくり」の実現と教育環境の向上を図るため、コミュニティ・スクールの充実に努める。
- ④ 郷土の豊かな自然や文化を生かし、地域の人々の協力を得て、郷土を愛する心を育てる特色ある教育活動を推進する。
- ⑤ 中学校の部活動の地域クラブ活動への移行(展開)に向けた体制づくりを進めるとともに、部活動指導員を配置し、部活動の地域連携を図る。
- ⑥ 子ども一人一人に向けた教育の充実を図るため、教育ビジョンの構築に向けた調査・研究の推進を図る。

8 「ともに生きる社会」の実現に向けた支援教育の充実

- ① 全ての子どもがともに学び、ともに育つインクルーシブ教育の推進を図る。
- ② 支援が必要な子どもたちの教育的ニーズを的確に把握し、必要な支援体制や環境を整え、教材や指導方法を工夫・検討しながら指導できる体制を推進する。また、保護者や関係機関との連携を図り、課題解決に向けた組織的な支援体制を整備する。
- ③ 不登校児童・生徒等、様々な理由から登校できない児童・生徒のニーズに応じて、オンライン学習を実施するなど、ICTを活用した学びを保障する。また、校内教育支援センター支援員を配置し、不登校児童・生徒等の支援体制の充実に努める。
- ④ 全ての子どもたちの学習機会の確保と学習支援のため、学習支援者、介助員、日本語指導員等を配置し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。
- ⑤ 国際教室での学習支援の充実等、外国籍幼児・児童・生徒に対する日本語指導をはじめとする支援体制や多文化共生教育の充実に努める。

9 安心・安全な園・学校づくりの充実

- ① 「中井町学校施設長寿命化計画」に基づき、教育施設の適正な維持管理に努める。
- ② 園・学校の防災計画や危機管理体制を見直し、学校安全や危機管理体制に関する研修を充実させたり、町内一斉引き渡し訓練を実施したりするなど、防災・防犯・安全体制の組織的な確立を図る。
- ③ 関係機関と連携した地区パトロール、通学路点検、学校安全点検、まちコミメールの活用などにより、子どもの安全の確保に努める。

- ④ 関係機関と連携し、交通安全教室や防犯教室などを実施し、自分の身を自分で守るための判断力を育むことができるよう、安全教育の充実に努める。

10 こども園での幼児教育・保育の充実

- ① こども園での実践的研究を推進し、教育・保育の質の向上やカリキュラムの充実を図る。
- ② 指導力の向上に向けて、こども園での園内研究や職員間の組織的対応を推進する。
- ③ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、こども園と小学校の教職員が子どもの成長を共有するなどの連携を図り、「中井町版 架け橋期のカリキュラム」に基づき、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化を図っていく。また、学びの連続性を意識し、幼児・児童・生徒に対する一貫性のある教育を相互に連携し協力し合って推進していく。

【社会教育】

1 生涯学習の総合的な推進

- ① 町民一人一人が生きがいとゆとりをもって充実した生活を送ることができる生涯学習社会の実現を目指して、第三次中井町生涯学習基本計画各施策の着実な推進を図る。
- ② 所管施設については、公共施設長寿命化計画に基づき、各施設の修繕・補修を計画的に実施し、適正な維持管理に努める。

2 豊かな人間づくりと学習環境の充実

- ① 町の文化・自然などにふれあい、地域の持つ教育力を活用しながら、健康で豊かな人間性を育むことができる学習環境の充実に努める。
- ② 人権尊重の精神に基づき、人権教育について正しい認識と理解を深めるとともに、講演会等の開催により町民の人権意識の啓発を図る。

3 青少年の健全育成と社会参加の推進

- ① 学校・家庭・地域が青少年一人一人に目を向け、善行奨励に努めるとともに、「町児童生徒表彰に関する規則」に基づき、町ぐるみで青少年の健全育成を推進する。
- ② 学校・家庭・地域の連携を図りながら、青少年のふれあい活動や社会参加を促進し、地域に根ざした青少年活動の推進にあたる。
- ③ 青少年の非行防止と健全育成のため、青少年関係団体との連携を強化しながら、「青少年育成のつどい」等の実施により地域環境浄化や啓発活動の推進を図る。
- ④ 小学生を対象とした青少年ふれあい交流や中学生を対象とした広域交流洋上体験等の活動を通し、地域の将来を担うリーダーの育成に努める。
- ⑤ 小・中学生のふれあいキャンプや中学生のふれあいスキー&スノーボード教室を開催し、小・中学生が集団生活を通して交流と連携を深めながら自然体験や団体規律などを修得する。

4 芸術・文化活動の促進と郷土文化や資源の継承

- ① 日ごろの生涯学習活動の成果を発表する場として、町民文化祭や公民館まつり等を開催し、文化芸術活動の促進を図る。
- ② 各種教室や講座を開催し、町民個々の文化活動を促進するとともに、文化団体連絡協議会への支援や指導者の育成に努める。
- ③ 学校教育や生涯学習の場など様々な機会を通じて地域の郷土文化や資源を後世に継承することに努める。
- ④ 五所八幡宮祭礼記録作成調査、文化遺跡等を巡るウォーキングの開催等により文化財に対する保護意識の高揚を図るとともに、デジタル郷土資料の情報更新や町内に散在する文化遺産の保存に努める。

5 スポーツの振興

- ① スポーツ推進計画に基づく諸施策の着実な推進を図る。
- ② 里都まちなかいスポーツイベントやニュースポーツ教室・大会を関係団体との相互連携により開催し、町民のスポーツへの自主的な参加の促進を図る。
- ③ スポーツ事業の実施や総合型地域スポーツクラブへの支援を行う。町内公共施設の予約システムを導入し、学校・社会体育施設やスポーツ施設の利便性の向上を図るとともに、町民のニーズに対応できるスポーツの機会の提供に努める。

6 読書活動の推進

- ① 蔵書の充実を図るとともに、図書室や学習室の有効活用により町民一人一人の読書活動を推進する。
- ② 小・中学校、こども園へ読書活動推進員の配置を充実するとともに、ボランティアの活動などにより、生きる力を育む読書活動の推進を図る。
- ③ 「読書の町 中井」を目指すため、11月3日を「中井町読書の日」と定め、ポスター、標語コンクール等の事業を実施する。また、「第二次中井町子ども読書活動推進計画」を策定し町民の読書活動の推進を図る。
- ④ 改善センター及び井ノ口公民館の図書室においては、図書電算システム更新により利用者の利便性向上を図るとともに、常駐化した図書司書によるレファレンスサービスの向上に努める。

7 土曜英語学習事業の充実

- ① 子どもの主体性を重視しつつ、学校の教育活動と連動した学習を土曜日に実施することを通して、子どもの学習意欲や学習習慣の形成を図る。
- ② 幼児から小学生6年生までを対象に、年齢に応じた英語活動、英会話体験をとおし、「なかいっ子」が楽しく英語に親しむ機会を提供する。

8 地域学校協働活動の推進

学校・家庭・地域が一体となり、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働するため、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進に努める。

9 学校部活動地域移行の推進

将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、中学校部活動の地域移行のあり方について関係行政機関、学校及び町内関係団体等と連携を図りながら令和8年度より事業が開始できるよう進める。

10 社会教育団体との連携

- ① 社会教育関係団体の自主的な活動を促し、地域に根ざした活動と団体間の相互連携の強化を図り、各団体が共同開催する活動の推進を図る。
- ② 社会教育関係団体の指導養成を支援し、活動の活性化を図る。

11 井ノ口公民館の活性化

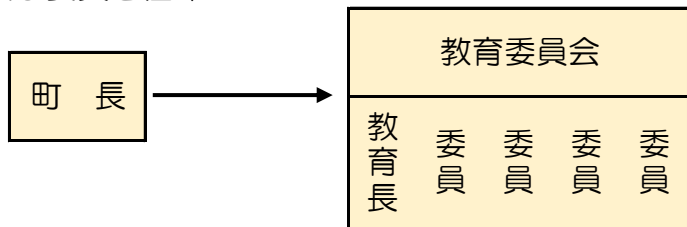
地域住民にとって身近な学習拠点として、また文化活動を通じた世代間交流の場としての役割を果たすとともに、地域住民全体が気軽に集えるコミュニティサービスを総合的に提供することに努める。

- ① 住民ニーズや地域の実情に応じた多様な学習機会の提供を図る。
- ② コミュニティ活動の高揚と地域連帯感の促進を図る。
- ③ 図書室の広域的相互利用の推進と読書意欲の涵養を図る。

中井町教育委員会の組織

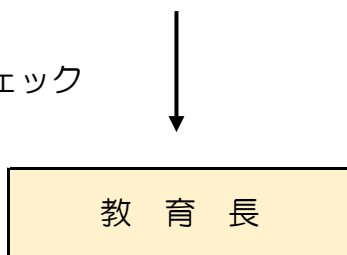
【教育委員会の機構図】（新教育委員会制度への移行後）

議会の同意を得て、教育長
及び委員を任命

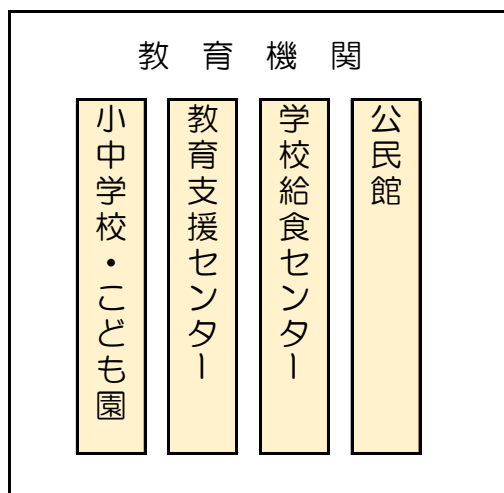
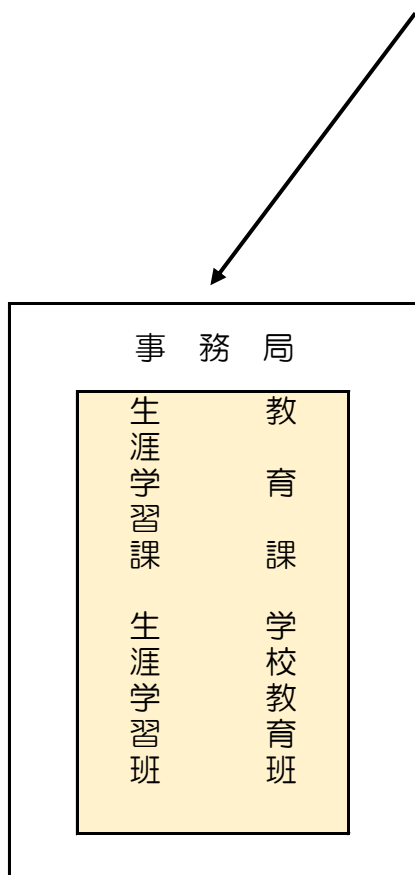


- 教育行政を自らの責任と権限において、管理・執行する執行機関
- 教育長及び教育委員の合議で意思決定

委員による事務執行チェック



- 教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表する（会議の主宰者、具体的な事務執行の責任者、事務局の指揮監督者）
- 任期3年



※ 中井町では、平成27年10月1日から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）に基づく新教育委員会制度に移行しました。

教育委員会点検・評価

平成20年4月から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなりました。

『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』の点検・評価のポイント

- 毎年行うこと。
- 教育委員会の事務の管理執行状況について行うこと。
- 教育に関し学識経験を有する者の知見を活用すること。
- その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表すること。

令和7年度中井町教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価の方針

1 趣旨

- (1) 中井町教育委員会は、「中井の教育」に基づく施策・事業の実施状況について点検及び評価を行い、課題や今後の改善方策を明らかにするとともに効率的かつ効果的な教育行政の推進を図る。
- (2) 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、町民に対する説明責任を果たし町民に信頼される教育行政を推進する。

2 実施方法

- (1) 毎年策定する「中井の教育」における主な施策に基づく施策や事業について、効率的に執行されているか点検及び評価を実施する。
- (2) 点検及び評価については、施策及び事業の総括を行うとともに、課題や改善策等を明確化する。
- (3) 点検及び評価については、毎年1回実施する。
- (4) 点検及び評価については、学識経験者の意見を聴取したうえで教育委員会がまとめる。
- (5) 教育委員会は、点検及び評価に関する報告書を作成し、町議会に提出するとともに町民に公表する。

点検・評価の構成

1 教育委員会の活動状況の点検・評価

令和7年度の活動を点検してまとめた実績や成果をもとに自己点検・自己評価を行い、今後の課題と対応策をまとめました。

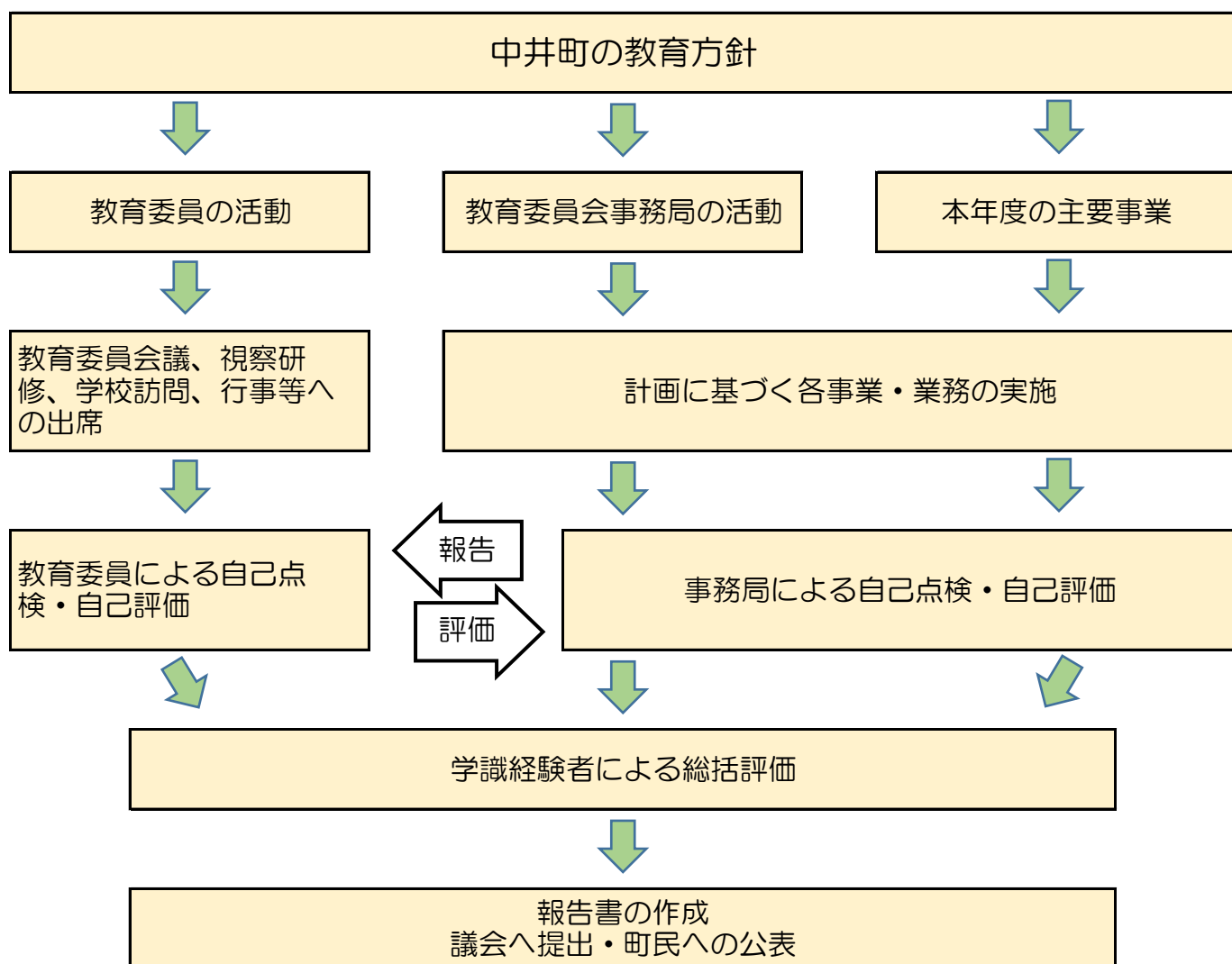
2 教育委員会事務局の活動状況の点検・評価

「中井の教育」の主な施策に基づく施策の取組状況の点検及び課題等の整理を行い、自己点検・自己評価を行いました。

3 本年度の主要事業についての点検・評価

本年度の主要事業に位置付けられた事業については、評価表を用い、事業の目的内容を精査し自己点検・自己評価を行いました。

点検・評価の流れ



1 教育委員会の活動状況点検・評価

教育委員会の開催状況

教育委員会議は、毎月1回定期的に開催される「教育委員会定例会」と、緊急の要件が発生した場合に開催される臨時会があり、令和7年度は合計15回開催しました。

教育委員会定例会 12回

教育委員会臨時会 3回 計15回

| 回 | 開催日 | 主な議題 |
|------|-------|--|
| 1(臨) | 4/1 | 中井町教育委員会教育長職務代理者の指名について(議案) 中井町教育委員会委員の役職等について(議案) |
| 1(定) | 4/23 | 中井町教育委員会表彰について(議案) 令和6年度中井町教育委員会点検評価報告書(案)について(議案) 令和6年度こども園及び小中学校評価結果報告書について(報告) |
| 2(定) | 5/21 | 令和6年度中井町教育委員会点検評価報告書(案)について(議案) 令和7年度生涯学習・社会教育関係事業計画について(報告) 里都まち♡なかい健康スポ・レク祭2025について(報告) 令和7年度中井町青少年育成のつどいについて(報告) 里都まち♡なかい「わいがやサロン」について(報告) |
| 3(定) | 6/25 | 令和7年度中井町サマースクールについて(報告) 中井町文化財指定物件補助金について(報告) 第35期戸沢村・中井町青少年ふれあい交流事業について(報告) |
| 4(定) | 7/23 | 令和8年度使用小学校教科用図書及び中学校教科用図書の採択について(議案) 令和8年度中学校特別支援学級教科用図書の採択について(議案) サマースクールのインターンシップについて(報告) 第35期戸沢村・中井町青少年ふれあい交流事業「夏期」について(報告) 令和7年度中井町ふれあいキャンプについて(報告) 令和7年度里都まち♡なかい自然観察会について(報告) |
| 5(定) | 8/19 | サマースクールの結果について(報告) |
| 6(定) | 9/24 | 総合教育会議の議題について(議案) 1市4町1村広域連携中学生交流洋上体験研修事業について(報告) 令和7年度里都まち♡なかい自然観察体験会について(報告) |
| 2(臨) | 10/3 | 中井町教育委員会教育長職務代理者の指名について(議案) 中井町教育委員会委員の役職等について(議案) |
| 7(定) | 10/23 | 総合教育会議の議題について(議案) 中井町教育委員会表彰について(議案) |
| 8(定) | 11/17 | 第1回総合教育会議の振り返りと第2回総合教育会議の協議事項について(議案) |
| 9(定) | 12/24 | 令和8年はたちのつどいについて(報告) なかい教育ビジョンの進捗について(報告) |

| 回 | 開催日 | 主な議題 |
|-------|------|--|
| 10(定) | 1/21 | なかい教育ビジョン(案)について(議案) 令和7年度第3回総合教育会議について(議案) |
| 11(定) | 2/18 | 中井町児童生徒表彰の被表彰者について(議案) なかい教育ビジョンについて(議案) |
| 12(定) | 3/25 | 中井町学校運営協議会規則の一部を改正する規則について(議案) 中井町立学校教職員服務規程の一部を改正する規程について(議案) 社会教育委員会議運営規則の一部を改正する規則について(議案) 中井町総合グラウンド条例施行規則の一部を改正する規則について(議案) 中井町公民館条例施行規則の一部を改正する規則について(議案) 中井町立小学校及び中学校の施設開放に関する規則の一部を改正する規則について(議案) 中井町立小学校及び中学校の施設開放に関する使用規定の一部を改正する規程について(議案) 中井町教育大綱について(議案) 学校のあり方検討について(議案) 中井町立学校におけるハラスメントの防止等に関する要綱について(報告) 中井町学校給食センター給食用物資納入業者指定要綱の一部改正について(報告) 中井町就学援助費交付要綱の一部改正について(報告) 中井町小中学校児童生徒学力検定料補助金交付要綱の一部改正について(報告) 中井町地域活動振興員設置要綱を廃止する要綱の制定について(報告) 中井町生涯学習推進協議会設置要綱を廃止する要綱の制定について(報告) |
| 3(臨) | 3/25 | 教職員の人事異動について(報告) 教育委員会事務局職員の人事異動について(報告) |

総合教育会議の開催状況

地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化を目的とした「総合教育会議」を3回開催しました。

| 回 | 開催日 | 主な議題 |
|---|-------|---|
| 1 | 10/23 | なかい教育ビジョンについて |
| 2 | 12/24 | なかい教育ビジョンについて |
| 3 | 2/18 | 生涯学習施設について なかい教育ビジョンについて 中井町立学校教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画について |

教育委員会議以外の主な活動状況

教育委員会議への出席以外に各種事業、大会・研修会への出席、学校訪問等を行いました。

| 月 | 町事業関係 | 各種協議会大会等 |
|-----|--|--|
| 4月 | 教職員任命辞令交付式（1日） 小中学校入学式（7日） | 県市町村教育委員会連合会総会 ※オンライン（15日） |
| 5月 | 学校訪問 中村小学校（15日） | 足柄上郡町村教育委員会協議会総会（22日） 全国町村教育長会（13、14日） 関東甲信越静市町村教育委員会連合会 総会・研修会（長野県県民文化会館） （31日） |
| 6月 | 学校訪問 なかいこども園（17日） 井ノ口小学校（27日） | 西湘地区教育委員会連合会総会・講演会 （11日） |
| 7月 | 学校訪問 中井中学校（7日） 青少年育成のつどい（5日） サマースクール（29日～31日） | |
| 8月 | | 西湘地区教育委員会連合会教育講演会 ※オンライン（21日） |
| 9月 | 学校視察（25日） | |
| 10月 | 総合教育会議（23日） | |
| 11月 | | 県市町村教育委員会連合会研修会 （綾瀬市文化会館）（14日） 足柄上郡教育委員会協議会教育委員研修会 （中井町役場）（28日） |
| 12月 | 町人権講演会（6日） 通学路交通安全推進会議（24日） | |
| 1月 | 中井町はたちのつどい（11日） 幼児・児童・生徒作品展 （21日、22日） 戸沢村・中井町青少年ふれあい 交流事業（17日～19日） | 第67回神奈川県公民館大会 （足柄上合同庁舎）（23日） |
| 2月 | 井ノ口公民館まつり（15日） 総合教育会議（18日） | |
| 3月 | 教職員転退任辞令交付式（31日） | |

点検・評価結果

評価結果 A：よくできている B：概ねできている C：改善が必要
 ()内は、前年度の評価を表しています。

教育委員会議の現状

| 項目 | 評価 | 課題・対応策等 |
|----------------------------------|----------|---|
| 十分な議論を行うための定例会の回数及び時間は確保されているか。 | A (A) | 月1回の定例会を実施することで、会議の必要回数は確保できている。また、委員全員が出席できるよう日程を調整し開催している。議題の整理と議論についても、必要な時間の確保に努めている。 |
| 適時議論できるように臨時会が開催されているか。 | A (A) | 委員の改選や人事案件のみならず、教科書採択等重要な案件も多く、必要に応じて適切に臨時会を開催し、議論を深めている。 |
| 各委員が問題点を指摘するなど、意見を積極的に述べているか。 | A (A) | 委員全員が積極的に意見を述べ、活発な議論が展開されている。 |
| 委員が意思決定のできるように十分な情報を事務局が提供しているか。 | A (A) | 委員が会議での発言や意思表示の準備ができるよう、会議資料を事前配布している。また、会議当日も委員の求めに応じて、随時資料提供がされている。 |
| 各委員が中井町の教育に対して明確な目標を持っているか。 | A (A) | 委員それぞれが、教育大綱で示された中井町の教育に対し、明確な目標を持って議論に臨んでおり、活発な意見交換がなされている。 |

教育委員会議以外の活動状況

| 項目 | 評価 | 課題・対応策等 |
|--|----------|--|
| 教育委員が児童・生徒及び教職員と直接接する機会は確保されているか。 | A (A) | 園・学校訪問を通して園児・児童・生徒及び教職員と接する機会は最低限確保できている。 |
| 教育委員が町民と直接接する機会は確保されているか。 | B (B) | 教育委員と町民が直接協議する場の設定は少ないものの、各委員が自主的に町内各地区の行事等に参加し収集した情報を会議の場に持ち寄り意見交換することで、町の教育の活性化や充実に寄与している。 |
| 広域的な問題についての近隣教育委員会との連携や協力、情報交換等が行われているか。 | A (A) | 県や西湘地区、足柄上郡の教育委員会連合会が主催する会議や研修会、講演会に積極的に参加することで、問題意識や課題対策の共有化を図っている。 |

教育委員会の活動状況の公開等

| 項目 | 評価 | 課題・対応策等 |
|------------------------|----------|---|
| 会議開催日時や議題を事前に広報しているか。 | A (A) | ホームページや教育委員会だより「わかくさ」により周知することで、適切に公開されている。 |
| 教育委員会議が原則公開されているか。 | A (A) | 中井町教育委員会会議規則及び中井町教育委員会傍聴規則の規定に基づき公開している。 |
| 傍聴するための配慮がされているか。 | A (A) | 傍聴人席の設置や開始時刻、開催場所など、傍聴人に配慮された会議開催がなされている。 |
| 会議開催後、速やかに議事録を公開しているか。 | A (A) | 会議終了後は、速やかに議事録をホームページで公開し、積極的な情報提供を図っている。 |
| 教育委員会の活動を地域住民に広報しているか。 | A (A) | 毎月、教育委員会だより「わかくさ」を全戸配布し、活動状況の報告を行っている。 |

総括

- 定例会をはじめ、園・学校への訪問、町事業や広域的な会議、研修会への出席等、年間を通して積極的に活動しており、教育に関する情報の収集や委員としての資質の向上に努めている。
- 定例会では、事前の資料配付や会議内容の報告などにより、会議の準備や振り返りにより、各議案や今後の方向性等について関心をもって会議に望むことができ、意見や課題解決に向けた議論が活発に行われている。
- 教育委員会だよりを毎月発行し、教育に関する情報をきめ細やかに公開している。また、教育委員会のホームページへ教育委員会議の会議録を掲載し、積極的な情報開示に努めている。
- 総合教育会議では、今後10年間の教育施策の総合的な指針となる教育ビジョンの策定に向け、町長と教育議論を深めることができた。

○ 教育委員会議の現状

会議は、年12回の定例会に加え、臨時会が必要に応じて開催されている。今年度は、新教育長の新任に伴い3回の実施となっている。

会議は、開催日時を事前調整していることから委員の出席率も高い。また会議資料も事前配付していることにより、活発な発言がなされ充実したものとなっている。

また、各学校の諸問題等も随時詳細に報告され、積極的な意見交換や協議を行ったり、情報共有がなされたりしていることから、学校訪問時に大いに役立っている。

○ 教育委員会議以外の主な活動状況

園・学校訪問等を実施することで、園児・児童・生徒及び教職員の様子と教育活動を直接確認するとともに教職員との意見交換も積極的に行えている。

また、今年度は総合教育会議を年3回開催し、「なかい教育ビジョン」の策定に向けて町長部局との連携を密に図っている。その他の教育政策に対しても密に協議と調整がなされ、教育事業の推進が図られたことは大いに評価できる。

各協議会による会議や研修会へ意欲的な参加を通して、教育委員としての資質向上に努めている。

○ 教育委員会の活動状況の公開等

町民に対して、中井町掲示板・ホームページ・教育委員会だより等による会議日程・議題等の周知、教育委員会議の公開、議事録全文のホームページ上での速やかな掲載等、積極的な情報公開が図られている。

また、定例会の傍聴者には、会議資料を配布するなど、傍聴者にも会議内容がわかりやすい環境づくりに努めている。また、町ホームページ上での非公開部分を除いた会議動画の配信など、町民が教育に対する関心を高め、会議への興味を持てるような取組により、実際に傍観する町民の増加を目指す工夫も必要と思われる。

2 教育委員会事務局の活動状況点検・評価

「中井の教育」重点施策についての点検・評価結果

評価結果 A：よくできている B：概ねできている C：改善が必要
 () 内は、前年度の評価を表しています。

学校教育

1 「確かな学力」を育む教育の充実 (生きる力の育成)

- ① 中井町の授業づくりの基本として設定した「なかい授業づくりスタンダード(「学習課題」と「まとめ」「振り返り」のある授業)に基づき、授業改善を充実させるため、各教科等の特質に応じて、ICTを効果的に活用した問題解決的な展開の授業を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める。

| 事業名 授業づくり委員会(園・小・中連携研究会)、学力向上対策会議 | | | |
|---|---|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| OGIGAスクール構想により配置された1人1台端末を使用した授業づくりが積極的に行われた。令和6年度からの研究テーマに基づきICT機器の効果的な活用場面の検討及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研究を進めることができた。 ○小・中学校でのICT機器の効果的な活用を推進した授業づくり、こども園での試行錯誤を促す保育実践の成果や課題について、研究紀要にまとめた。 | ○ICT機器の効果的な活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるための工夫や授業改善を行う。 ○児童・生徒の表現力や自ら学び方を選ぶことについての取組を工夫する。 | A (A) | ○「なかい授業づくりスタンダード」に基づき、主体的・協働的な学びの実現に向けた研究を進めることができた。 ○校内研究会をとおして、さまざまなICT機器の活用について情報共有を行ったり、活用に関して指導主事による指導・助言ができたりした。 ○指定研究事業2年目の成果と課題をまとめ、3年目の方向性を検討できた。 |

- ② 園・小・中の学びの連続性を意識した一貫性のある教育の推進のため、相互連携を深める。

| 事業名 | | 園長・校長会、副園長・教頭会、授業づくり委員会 | |
|---|--|-------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○園長・校長会では、園・各学校の現状を共有し、相互の教育活動の理解に努めた。</p> <p>○町教育委員会主催の初任者研修では、小学校の教諭がこども園を訪問し、園・小・中の学びの連続性を確認することができた。</p> <p>○各学校の研究授業の日程を教育委員会で取りまとめ、各学校・園に共有し、互いに授業や保育研究会に参加することができた。</p> | <p>○園・各校で実施される授業研究会に、他校の先生が積極的に参加することができる環境づくりを推進する。</p> <p>○園・小、小・中の子どもの同士の交流と併せて、教員同士の積極的な交流ができる機会についても検討する。</p> <p>○交流する際は、そのねらいについて互いに共有できるように努める。</p> | A (A) | <p>○園長・校長会や、様々な研究会・研修会をとおし、園・小・中の連携を意識したテーマに基づいた協議や指導主事による指導・助言をすることができた。</p> <p>○初任者研修を活用し、経験の浅い教諭に対して、園・小・中の連続性を意識した授業や学校生活の充実を図ることの大切さを意識づけることができた。</p> |

2 「豊かな心」を育む教育の充実（生きる力の育成）

- ① 全教育活動を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、道徳教育の推進に努める。道徳科の授業研究や道徳教育の研修により、人権意識を高め、指導力向上に努める。

| 事業名 | | 道徳教育研究会 | |
|---|--|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○井ノ口小学校において、道徳教育研究会を開催し、小・中の道徳教育担当が参加し、「考え、議論する道徳」の実現に向けた協議が実施できた。</p> <p>○道徳教育研究会では「考え、議論する道徳」の実現に向け、発問や展開の工夫や推進教師としての役割について確認することができた。</p> | <p>○子どもたちの人権意識をさらに高められるような道徳授業の工夫や充実を図る。</p> <p>○「考え、議論する道徳」をさらに充実させるために、適切な教材の選択、発問や展開の工夫など、教員の指導力の向上、学習評価の工夫・改善に努める。</p> | B (B) | <p>○子どもの実態や状況に応じて、「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業づくりを実施することができた。</p> <p>○年1回の研究会だけではなく、日ごろから園・小・中の担当教員と連携を図りながら、道徳教育のさらなる充実を目指していきたい。</p> |

- ② いじめ、不登校、問題行動等への対応のため、園・学校にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを派遣し、教育相談コーディネーターと連携しながら教育相談体制の充実に努める。また、家庭や教育支援センター、関係機関との連携を図り、いじめや不登校等の未然防止、早期発見、適切な対応に取り組む。

| 事業名 幼児・児童・生徒指導研究会、町学校カウンセリング事業 | | | |
|--|---|------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○毎月開催しているいじめ防止対策会議や、年2回の幼児・児童・生徒指導研究会において情報交換を行い、共通理解を深めることで、いじめの根絶や不登校の未然防止に取り組んだ。</p> <p>○年3回のいじめアンケートと定期的ないじめミニ点検、教育相談等を通して、いじめや不登校の実態を調査し、早期対応に努めた。</p> <p>○教育支援センターと連携を図り不登校児童・生徒の状況把握に努めた。</p> <p>○県、町のスクールカウンセラーや、町のスクールソーシャルワーカーとの連携を図るため、連絡会の開催や情報共有の場を設定し、情報共有を図った。</p> <p>○いじめアンケートの結果を教育委員会だより等で公表し、保護者・地域の理解と協力を得るよう努めた。</p> | <p>○いじめや不登校の未然防止対策である「魅力ある学校づくり」を目指した、園・学校の特色ある学級・学校づくりの一層の推進をめざす。</p> <p>○より一層組織的に早期発見・早期支援が行えるよう、いじめミニアンケートから、学校生活の中でそれらの兆候を早期にキャッチすることを目的とした生活アンケートへと移行し、児童・生徒指導に活かす工夫をする。</p> | <p>A (A)</p> | <p>○毎月、いじめ防止対策会議を開催し、情報交換や協議を行い、いじめの根絶に向けた取組の強化を図った。</p> <p>○年3回のいじめアンケートや定期的に行うミニ点検、教育相談、いじめ防止強化月間における児童・生徒会活動等の学校の特色ある取組の結果、いじめの早期発見、早期解決につながり、重大事態になるいじめの事例はない。</p> <p>○今後も、県や町のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連絡会を開催し、情報共有を図るようにしていきたい。</p> |

3 「健やかな体」を育む教育の充実（生きる力の育成）

- ① 健康で活力ある生活を送るため、幼児・児童・生徒が健康3原則（食事・運動・睡眠）を意識しながら、規則正しい生活習慣を確立できるよう、家庭や地域と連携した取組に努める。

| 事業名 生活実態調査の実施、生活改善啓発資料発行 | | | |
|---|--|------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○児童・生徒の家庭学習等の学習状況及び生活実態調査とその調査結果に基づいた「子どもの生活改善キャンペーン」の家庭配布等を通して、生活習慣の改善や家庭学習、読書の習慣化について保護者・地域への啓発に努めた。</p> | <p>○児童・生徒の家庭学習等の学習状況及び生活実態調査とその実態調査結果を啓発活動に結び付け、学校や家庭と連携して、家庭学習だけでなく、子どもの生活習慣全体の改善に直結するような効果的な方策を模索していく。</p> | <p>B (B)</p> | <p>○児童・生徒一人一人の生活実態を把握し、それを学級担任と共有することにより、個に応じた指導に役立てることができた。</p> <p>○学校と教育委員会が連携し、より効果的な生活改善に向けた保護者への啓発などについて検討する。</p> |

- ② 学校における食育の推進や献立委員会、食育担当者会議等を通して、食育の充実に努めるとともに、給食費を無償とすることで家庭の経済的負担を軽減する。

| 事業名 | | 献立委員会、食育担当者会議、給食費無償化事業 | |
|--|---|------------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○学校給食センターで作成した「給食メール」を町内の小・中学校へ配布し、給食をとおして食材についての知識や献立にまつわる歴史等について学べるよう努めた。</p> <p>○3～4か月に一回、献立委員会を開催。センター所長、栄養技師、各校の給食担当教諭、PTAの代表者が集まり、給食をより良くするための協議を行った。</p> <p>○学校給食費については、公会計を実施するとともに、小・中学生ともに全額無償化としている。</p> | <p>○町内の学校は3校あるが、町で栄養技師は一人しかいないため、各校の食育の推進について連携を図る。</p> | <p>A (A)</p> | <p>○定期的に献立委員会を開催することで、学校給食センターと3校の連携をより深めることができた。</p> <p>○給食メールを発行することにより、児童・生徒への食育の推進に資することができた。</p> <p>○給食費無償化事業については、公会計を実施し、町会計として運営することができた。</p> <p>○人事異動により他町の栄養教諭が併任となったが、栄養技師と連携をとり、事業を効果的に進めることができた。</p> |

4 国際社会で活躍できる人材の育成（英語教育の充実 重点課題）

- ① 学習指導要領に基づき、国際社会を生き抜く力を養い、国際社会で活躍できる人材を育成していくため、英語教育の充実に努める。小・中学校では、外国語指導助手の活用を一層進め、外国語活動・外国語科の充実に努めるとともに、国際理解教育の推進を図る。こども園では、楽しい英語遊びの活動の充実に努める。

| 事業名 | | 外国語指導講師雇用、英語教育研究会及び専門部会 | |
|--|---|-------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○町の直接雇用の外国語指導助手2名により、中学校へ週5日、小学校へ2日ずつ派遣。小学校では、外国語だけではなく、国際理解の一環として他教科の支援にも入るなど、活用の幅が広がっている。</p> <p>○小学3年生から、英語専科教員による授業が実施され、より専門的な内容の授業が実施されている。</p> <p>○小・中学校の英語の保育授業参観、研究協議を通して、園・小・中の学びのつながりやALTの活用などについて活発に意見交流することができた。</p> | <p>○ICTを活用した魅力ある授業づくりを推進する。</p> <p>○ALTを活用した、さらなる国際理解教育を推進する。</p> <p>○学校での英語学習をベースに、日常的に英語に触れるような機会をつくり、子どもたちが主体的に英語を使ってコミュニケーションをとれる場面を増やしていく。</p> | <p>A (A)</p> | <p>○小学校では、日常的にALTとの交流が行われ、授業以外にも子どもたちが英語でのコミュニケーションをとる機会が増えている。また、楽しみながら英語を学ぶこともできている。</p> <p>○小・中のALTも参加して、英語の授業参観と研究協議を実施することができ、小・中連携を意識した英語の授業づくりを推進することができた。</p> <p>○4月には、小学校のALTが中学校を訪問し、授業の補助を行うなど、小・中連携を意識した取組を行うことができた。</p> |

5 情報社会を生きる児童・生徒の育成（情報教育の充実 重点課題）

- ① 小学校では、プログラミング教育を展開し、プログラミングの体験を通じた論理的思考力の育成を目指すとともに、それらを中学校における各教科につなげていく。

| 事業名 情報教育研究会 | | | |
|--|--|----------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>OGIGAスクール構想による1人1台端末を活用した授業を、各教科において積極的に実施することができた。</p> <p>○小・中学校では、プログラミングのアプリケーションや教科書のデジタルコンテンツを活用して、プログラミング教育を引き続き実施することができた。</p> | <p>○プログラミング教育の充実を図るため、研修等とおして教員のプログラミングへの理解度を高め、指導力の向上に努める。</p> <p>○各教科において、子どもたちにプログラミング的思考を身に付けさせるような授業づくりをめざし、実践の共有を図る。</p> | B (B) | <p>○ICT機器を活用した授業づくりが積極的に行えた。中学校の技術科において、プログラミングのアプリを活用した授業を実施し、プログラミング教育の充実を図ることができた。</p> <p>○プログラミング教育に関する授業研究をさらに推進していく必要がある。</p> |

- ② G I G Aスクール構想の実現を図るため、児童・生徒一人一人がI C T端末を効果的に活用できる授業体制を整え、I C Tを活用した授業づくりや教材研究を進めていく。

| 事業名 オンラインによるICT支援事業・情報教育研究会 | | | |
|--|---|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○ICT支援員の訪問支援によるICT研修では、教員のニーズに応じた研修を計画し、より効果的な研修を実施した。</p> <p>○情報教育研究会では、新しくリリースされたアプリ等について、情報提供を行い各校での活用を支援した。</p> <p>○ICT支援員が実際に学校に訪問する機会が増えたことで、教員の信用も深まり、オンライン支援の利用の増加にも繋がった。</p> | <p>○効果的なICTの活用について、教員間の格差が大きいため、その解消に努める。</p> <p>○生成AIなどの授業活用や個別最適な学習支援について、検討を進める。</p> | A (A) | <p>○ICT支援員の訪問支援では、様々な内容の研修が実施でき、授業での効果的な活用について知識が深まった。</p> <p>○情報教育研究会にはICT支援員にも参加してもらい専門的な知識の共有ができた。</p> <p>○生成AIに関する町のガイドラインを策定したが、定期的な見直しが必要。</p> |

6 教員の資質向上・支援の推進

- ① 園・学校の校内研究会における学校訪問において、教員の指導力向上につながる指導助言に努める。授業づくり委員会等において、園・学校の研究推進委員との連携を図り、研究会の活性化を推進する。

| 事業名 授業づくり委員会（園・小・中連携研究会） | | | |
|--|---|----------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○園内研究会や校内研究会への指導主事の参加により、「なかい授業づくりスタンダード」や学習指導要領の趣旨に基づいた指導・助言、園・小・中の連携を意識した指導・助言を行った。</p> | <p>○より妥当性、信頼性のある学習評価の実施に向けた適切な指導・助言を行う。</p> <p>○園・小・中の連携や接続をより意識した、異校種に関する情報提供を充実させる。</p> | A (A) | <p>○「なかい授業づくりスタンダード」や学習指導要領の趣旨に基づいた適切な指導・助言を行うことができた。また、園・小・中の連携を意識した指導・助言も行うことができた。</p> <p>○指定研究事業2年目のまとめを行い、次年度の研究の方向性を検討できた。</p> |

- ② 校内事故防止会議及び教職員の服務についての研修を充実し、綱紀の保持の徹底を図る。

| 事業名 | | 副園長・教頭会 | |
|---|--|----------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○各校において、教頭を中心として、校内事故防止や不祥事防止に関する研修を実施することができた。 | ○副園長・教頭会を活用し、校内事故防止や不祥事防止に関する情報提供を充実させる。教育委員会としても、機会を捉えて研修を進めていくことも今後は必要である。 | A (A) | ○校内事故防止や不祥事防止の会議や研修は、園・学校がそれぞれ工夫をしながら実施することができた。 ○神奈川県教育委員会から毎月発行される「不祥事防止職員啓発・点検資料」を活用し、教職員の不祥事防止のための取組を強化している。 |

7 「地域とともにある学校づくり」の推進（コミュニティ・スクール制度の導入 重点課題）

- ① 「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、学校評価や地域学校支援ボランティア制度、教育委員会だより等を活用し、学校・地域・家庭が連携・協働していく「地域とともにある学校づくり」の推進に努める。

| 事業名 | | 学校運営協議会の活用、教育委員会及び学校だよりの発行、ホームページの活用 | |
|---|---|--------------------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○教育委員会だより「わかくさ」を発行し、教育委員会事業や園・学校の教育活動の様子をわかりやすく発信した。 ○スクールコーディネーターを園・学校に1名ずつ配置し、積極的に学校支援ボランティアを活用できた。 ○学校運営協議会を活用し、学校運営の充実・改善を図り、信頼される園・学校づくりに努めた。 ○各学校の学校運営協議会委員が別の学校の行事に参加する等、町内の学校の教育活動に対する理解が深まった。 | ○教育委員会だよりの記述内容について、より分かりやすい表現や内容の工夫を図り、視覚的にもより見やすく読みやすい紙面を目指す。また、ホームページを定期的に更新し、内容の充実を図る。 ○園・学校のスクールコーディネーターの連携を図り、学校支援ボランティアをより充実させていく。 | A (A) | ○毎月発行する教育委員会だよりを色刷りにすることで、掲載する写真が鮮明になるなど紙面が見やすくなり、教育委員会の事業や園・学校の様子をわかりやすく発信することができた。 ○スクールコーディネーターの活用により、ボランティアとの連絡・調整などを円滑に行うことができた。 ○年間を通じて計画的に学校評価を行い、学校関係者や学校運営協議会委員、保護者の意見を学校経営の改善に反映できた。 |

- ② コミュニティ・スクール制度を導入し、小学校から中学校までの9年間を通した「目指す子ども像」を、学校、保護者及び地域住民が共有し、協働することにより、「地域とともにある学校づくり」の実現と教育環境の向上を図る。

| 事業名 | | 学校運営協議会、地域学校支援ボランティア連絡会 | |
|--|---|-------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○コミュニティ・スクールを導入し、年4回の学校運営協議会を開催し、地域や保護者等の理解や協力を得ながら学校運営を行った。</p> <p>○第4回学校運営協議会では、熟議を通して「目指す子ども像」の実現に向けた具体的な取組について検討した。</p> | <p>○地域学校協働活動と連携した取組を実現させる。</p> <p>○年4回の運営協議会の内容や持ち方についての検討。</p> | B (B) | <p>○コミュニティ・スクールを導入し、学校、地域、保護者が連携・協力した学校運営を行うことができた。</p> <p>○「目指す子ども像」の実現に向け、具体的な取組についての検討が必要である。</p> <p>○学校、地域、保護者が協働で学校の課題解決を行うために、より良い運営方法の検討も必要である。</p> |

8 「ともに生きる社会」の実現に向けた支援教育の充実

- ① 全ての子どもがともに学び、ともに育つインクルーシブ教育の推進を図る。

| 事業名 | | 特別支援教育担当者研究会 | |
|--|---|--------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○特別支援教育担当者研究会を開催し、園、各校の取組をもとに特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒への指導・支援等の諸問題について情報の共有に努めた。</p> <p>○指導計画や教材の作成等を支援するための教育ソフトを導入することで、小中での情報の引継ぎが円滑に行えるようになった。</p> | <p>○全校児童・生徒が、障がいの有無に関わらず共に学ぶことができる体制を一層充実していく。</p> <p>○中村小学校におけるインクルーシブ教育を継続して行い、その成果を、町内の園・学校に発信することで教職員の理解を深め、インクルーシブ教育をより一層推進していく。</p> | B (B) | <p>○特別支援教育担当者研究会での積極的な情報共有を通して特別支援教育の充実向上に向けた小・中の特別支援教育の連携を図ることができた。</p> <p>○中村小学校のインクルーシブ教育の成果を園・学校で共有し、インクルーシブ教育に対する理解を深めることができた。</p> |

- ② 国際教室での学習支援の充実等、外国籍幼児・児童・生徒に対する日本語指導をはじめとする支援体制や多文化共生教育の充実に努める。

| 事業名 | | 国際教室の開設、日本語指導、国際教育担当者連絡会 | |
|---|---|--------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○児童・生徒の発達段階を考慮し、個別の指導計画に基づいた日本語指導を行い、児童・生徒の日本語習得の充実を図った。</p> <p>○日本語学習支援有償ボランティアを活用し、個別の取り出し指導の充実につなげた。</p> <p>○小学校入学前の幼児とその保護者を対象に「なかまるプレスクール」を実施し、学校生活を円滑に始められるよう支援した。</p> | <p>○外国籍児童・生徒と日本の児童・生徒の交流を通して、国際理解教育を推進していく。</p> <p>○外国籍児童・生徒の学習支援や、進路指導等をより丁寧に行う。また、保護者との更なる連携を図ることができるよう、関係団体や地域との連携・協力を図っていく。</p> | A (A) | <p>○日本語指導員や日本語学習支援有償ボランティア、通訳者派遣事業等、様々な人的リソースを活用し、支援の充実を図った。</p> <p>○国際教育担当者連絡会では、プレスクールの実施に向けた準備を協議することができ、学校生活を始めるうえでの支援について、理解を深めることができた。</p> |

9 安全・安心な園・学校づくりの充実

- ① 園・学校の防災計画や危機管理体制を見直し、町内一斉引き渡し訓練を実施するなど、防災・防犯・安全体制の組織的な確立を図る。

| 事業名 | | 施設・設備の点検、防災計画の見直し、安全・防災教育担当者研究会 | |
|---|--|---------------------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○教育委員も同行して学校訪問を行い、施設・設備の状況を現場で把握して安全管理・整備に努めた。</p> <p>○町の防災計画に基づいて園・学校の防災計画を見直し、整備を図った。</p> <p>○園・学校の安全防災担当者において、危機管理マニュアルの見直しや安全点検・避難訓練等、園・学校が一体となった防災安全体制や安全教育の充実を図った。</p> | <p>○園・学校の危機管理体制の一層の強化と関係機関や関係団体との連携・協力体制の確立が必要である。</p> <p>○教職員や子どもたちに様々な場面における危険の予測や危険回避能力、危機対応能力を育成するため、防災教育の充実を図る。</p> | A (A) | <p>○危険が予想される箇所や設備には可能な限り迅速に対応した。</p> <p>○防災計画、危機管理マニュアルについて情報交換を行い、防災安全体制や安全管理・安全教育の確立・整備に努めた。</p> <p>○安全・防災教育担当者研究会では、学校安全・危機管理に関する協議を実施し、学校安全・危機管理に関する意識を高めることができた。</p> |

10 こども園での幼児教育・保育の充実

- ① こども園での実践的研究を推進し、教育・保育の質の向上やカリキュラムの充実を図る。

| 事業名 | | 授業づくり委員会（園・小・中連携研究会）、園内研究会 | |
|--|--|----------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○エピソード記録をもとに、発達段階に応じた子どもの学びの芽を捉え、充実した教育保育を実施するための研究を推進した。</p> <p>○ドキュメンテーションの作成を通して、教育保育の内容を客観的に振り返り、教育保育の質の向上を図った。</p> | <p>○それぞれの発達段階における学びの芽のつながりを意識する。</p> <p>○ドキュメンテーションの活用をもとに、保育教諭の関わりや環境構成の工夫や改善を図る。</p> | A (A) | <p>○エピソード記録をもとに、発達段階における学びの芽を捉えることができた。</p> <p>○発達に課題を抱える子どもの支援の工夫や「架け橋期」の重要性等について、大学教授を招聘し、園内研究会の充実を図ることができた。</p> |

- ② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、こども園と小学校の教職員が子どもの成長を共有するなどの連携を図るなど、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化を図っていく。また、学びの連続性を意識し、幼児・児童・生徒に対する一貫性のある教育を相互に連携し協力し合って推進していく。

| 事業名 | | 教育委員こども園・学校訪問、園・学校経営研究会、架け橋プログラム研究会 | |
|--|--|-------------------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○園内研修では、こども園での学びが、小学校の学習にどのようにつながるのかを具体的な事例をもとに考え、園・小連携の重要性を意識することができた。</p> <p>○小学校教諭の初任者研修等において保育参加を実施し、園と小・中学校の相互理解の大切さを確認した。</p> | <p>○「架け橋期」のカリキュラムを検討し、園・小連携を一層充実させる。</p> <p>○園と小学校教員が日頃から情報交換や情報共有を図る場を設定し、相互理解を一層深めていく。</p> | A (A) | <p>○園内研修において、園・小・中連携の視点に立った教育の充実が図れるよう、具体的な事例をもとに適切な指導・助言を行うことができた。</p> <p>○様々な機会に、小・中学校の教員が園訪問を行い、園・小・中の学びの連続性を意識した研修や研究を実施することができた。</p> <p>○園小連携のための「架け橋プログラム研究会」を開催し、担当者どうしによる情報共有、協議をとおし、架け橋期のカリキュラムを検討することができた。</p> |

- 校内研究会をとおしてICT機器の活用について情報共有を行い、「なかい授業づくりスタンダード」を基にした、主体的・対話的で深い学びの授業が実践されている。前回の指定研究の成果を生かしつつ、新たな研究テーマでも引き続き教員のICT活用力や指導力の更なる向上に期待する。
- ICT機器やタブレット端末等を活用した教育は、今後より一層学ぶ姿勢が高まっていくと考えられるが、授業を進めていく中で、どのように興味・関心を持たせ、主体的に問題を解決していく力をつけていけるのかも大切にしながら、授業力が高まっていくことを期待する。
- 特別支援教育担当者研究会を開催し、園・学校の取組をもとに特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒への指導・支援等の諸問題について情報の共有に努めている。今後も支援が必要な子どもたちに対して、きめ細かな配慮をお願いしたい。
- 小学校においては、外国語指導助手（ALT）との日常的な交流により、子どもたちが英語に関心を持てるような環境づくりがされており、学校現場の取組について評価したい。今後の課題として、近隣市町に例があるように、1校に1名のALT配置を検討するなど、児童・生徒の更なる英語力の向上に努めていただきたい。
- 国際教室の開設など、外国につながるの児童・生徒への対応がよくなされており、国際理解教育にも努力されている。また、日本語指導員や日本語学習支援有償ボランティアを配置して、外国につながるの児童・生徒への学習支援のみならず、日本語の理解が難しい保護者に対して通訳者を派遣する等、学校教育の理解と協力が得られるよう努めており、外国につながるの児童・生徒に対しきめ細かな対応ができています。
- 学校運営協議会を開催し、地域や保護者の理解や協力を得て学校運営が行われている。今後も「目指す子ども像」の実現に向け、学校・地域・教育委員会の連携のもと、地域とともにある学校づくりを推進していただきたい。
- こども園では、エピソード記録をもとに、発達段階に応じた教育保育を実施するための研究を推進されている。また、ドキュメンテーションを活用して、教育保育の質の向上を図っているが、こども園での保育の良い部分が、さらに広く町民に認識されるようドキュメンテーションを活用し、内部だけでなく外部への発信ができるような工夫も今後検討していただきたい。

社会教育

1 生涯学習の総合的な推進

- ① 町民一人一人が生きがいとゆとりをもって充実した生活を送ることができる生涯学習社会の実現を目指して、第三次中井町生涯学習基本計画各施策の着実な推進を図る。

| 事業名 | | 自治会親善ユニカール大会・モルック大会 | |
|--|--|---------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○町民一人一人の状況に応じて気軽にスポーツ参加できる機会づくりや環境づくりに努めるため、自治会親善ユニカール大会とモルック大会をの開催を予定していたが、残念ながらモルックは雨天中止となってしまう。 ユニカール大会；16自治会、25チーム、86名参加 モルック大会；雨天中止 | ○スポーツ活動に対する取り組みやその推進を担う地域活動振興員に温度差がある。 ○次年度より地域活動振興委員が廃止になるが参加人数や運営に影響が出ないよう注視していく。 | A (A) | ○地域活動振興員だけでなく、自治会長にも取りまとめの依頼をお願いするなど、積極的な参加を促す取り組みを行った。来年度からは、地域振興委員が廃止となることもあり、さらなる工夫・仕掛けが必要である。 |

- ②所管施設については、公共施設長寿命化計画に基づき、各施設の修繕・補修を計画的に実施し適正な維持管理に努める。

| 事業名 | | 社会教育施設等の長寿命化 | |
|--|--|--------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○公共施設管理者調整会議において、中井町公共施設等総合管理計画及び長寿命化計画に基づいて、全庁的に向こう5年間の施設修繕計画を調整し、予算の裏付けとともに計画的な施設の修繕・補修を行っている。 | ○施設の老朽化とあわせて、要求される設備機能の高度化が高まっており、施設修繕と改善改良に資する工事の検討を進めていく必要がある。 ○天候不順などの影響もあり各所で不具合・損傷が発生し、計画的な修繕スケジュールに基づく改修の実施が困難となっている。 | B (B) | ○各施設とも長寿命化計画に基づき維持修繕を行っているが、設備の突然の故障などに備え予防的修繕に努めていく必要がある。 |

2 豊かな人間づくりと学習環境の充実

- ① 町の文化・自然などにふれあい、地域の持つ教育力を活用しながら、健康で豊かな人間性を育むことができる学習環境の充実に努める。

| 事業名 | | 社会教育教室の充実 | |
|---|--|-----------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○井ノ口公民館において、正月飾りづくり、竹細工教室等を実施した。 迎春の寄せ植え教室 15名 正月飾りづくり教室 16名 竹細工教室 12名 | ○住民ニーズを捉えながら、多様な学習機会の提供に努めていく。 参加者の少ない教室については、内容の見直しも必要である。 | A (A) | ○多くの方に参加頂けるよう、町広報紙以外の媒体での募集や講座・教室の案内を数か月まとめて紹介する、興味関心を引くようなタイトル名や内容の説明の工夫をする。 |

- ② 人権尊重の精神に基づき、人権教育について正しい認識と理解を深めるとともに、講演会等の開催により町民の人権意識の啓発を図る。

| 事業名 | | 中井町人権講演会 | |
|--|--|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○町民の人権教育及び意識向上のため、12月の人権週間に合わせて講演会を開催。 講師：高岡 里衣 氏 演題：ヤングケアラーが抱える葛藤～「ありのまま」に寄り添うために～ 参加者：47名 | ○町民の人権意識の啓発を図るとともに、自発的な参加を募る必要がある。人権という言葉から難しそうと受け取られがちではあるが、誰もが生まれながらにして持っている人間らしく、自分らしく生きることのできる権利であり、認知度が低いテーマでも積極的に取り上げていく必要がある。 | B (B) | ○参加人数が例年少ないことから、より多くの人に来場してもらえるよう、テーマ、講師選定、開催日、時間の検討とともに、これまでと同じ周知方法によるのではなく、多様な周知方法を実施していく。 |

3 青少年の健全育成と社会参加の推進

- ① 学校・家庭・地域が青少年一人一人に目を向け、善行奨励に努めるとともに、「町児童生徒表彰に関する規則」に基づき、町ぐるみで青少年の健全育成を推進する。

| 事業名 | | 児童生徒表彰 | |
|--|---|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○昨年度より一律表彰を見直し、他の児童生徒の模範となるような善行をした者、全県的規模以上の大会において優秀な成績を収めた者に対する表彰に改めた。今年度は、学校からの推薦により中学生1人を表彰した。 | ○児童生徒数の減少や子供会等の地域組織の縮小、地域での見守り意識の希薄化などにより、推薦される児童生徒が少ない。学校に早期の依頼をするなど周知の方法の工夫を検討する。 | B (B) | ○顕著な成績を収めた児童生徒を全校児童・生徒のいる前で表彰することにより、受賞者のさらなる励みや頑張りにつながるのと同時に、それを目の当たりにしたほかの子の奮起を促すことにもつながることが期待される。 |

- ② 学校・家庭・地域の連携を図りながら、青少年のふれあい活動や社会参加を促進し、地域に根ざした青少年活動の推進にあたる。

| 事業名 | | 中学生ボランティア | |
|--|--|-----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○青少年のふれあい活動や社会参加を促進するため、青少年指導員が主催となり万年橋付近の花壇に花を植える「花いっぱいの中井町」に中学生ボランティアを募集したが、申込者がいなかった。</p> <p>○戸沢村との交流において中学生ボランティアを募集したところ、13人の参加があり、夜のオリエンテーション等に協力していただいた。</p> | <p>○「花いっぱいの中井町」については、コロナ禍により事業を継続実施できない時期があったため、参加する中学生が途切れてしまった。中学生に対して効果的な事業周知を行っていく必要がある。</p> <p>○前年度の戸沢村交流参加者が中学生となって、小学生に対しボランティア協力するという好循環が生まれつつある。</p> <p>○学校側の負担を考慮しながら、中学生ボランティアとして参加できそうな事業には、今後も積極的な活動の機会を広めていく必要がある。</p> | B (B) | <p>○配布物のデザインの見直し等を図ったが、参加者が確保できず、事業推進が図れなかった。</p> <p>○ボランティアで多くの参加があったことは非常に良かった。一方で全員に適切な役割を充てることが難しくなった一面もあった。</p> |

- ③ 青少年の非行防止と健全育成のため、青少年関係団体との連携を強化しながら、「青少年育成のつどい」等の実施により地域環境浄化や啓発活動の推進を図る。

| 事業名 | | 青少年指導員町内パトロール・青少年育成のつどい | |
|--|--|-------------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○青少年の非行防止と健全育成のため、青少年指導員による町内パトロールを夏休み前と冬休み前の年2回実施した。</p> | <p>○青少年指導員の負担を考慮すると年2回が限度となっている。</p> | A (A) | <p>○これまでパトロール中の対応案件はないことから、地域環境浄化、啓発に繋がっている。</p> |
| <p>○地域ぐるみで青少年の育成を担うため、7月に青少年育成の集いを開催した。 講師：土肥 潤也氏 演題：「若者たちが創る中井」 参加者：55名</p> | <p>○講師の知名度が要因か、昨年と比較し、参加者数が半減してしまった。周知方法の見直し、講演内容・集客力等を考慮した講師選定など、工夫する必要がある。 講演会形式だと青少年自身の参加を促すことが難しいため、別の開催方法を視野にいれる。</p> | B (A) | <p>○アンケート結果等から、講演の内容は参加者にとって有意義なものだったと推察できるが、参加者数に目を向けると十分な事業効果を得られたとは評価しづらい。</p> |

- ④ 小学生を対象とした青少年ふれあい交流事業や中学生を対象とした広域交流洋上体験等の活動を通し、地域の将来を担うリーダーの育成に努める。

| 事業名 | 戸沢村・中井町青少年ふれあい交流事業、広域連携中学生交流洋上体験研修事業、青少年ふれあいキャンプ | | |
|--|--|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○戸沢村との夏期・冬期交流について、中井町、戸沢村共に7名の申し込みがあった。コロナ禍以来、人数等の問題で実施できていなかったホームステイを令和元年度ぶりに実施できた。</p> <p>○1市4町1村の中学生を対象とした交流洋上体験研修は、波が荒れタイムスケジュール等の変更があったが新島に上陸や海水浴等の主要イベントは体験することができた。中学生3名が参加した。</p> | <p>○中井町、戸沢村の双方とも全体の児童数が減少しており、今までと同じ児童の参加を求めていくことが今後難しくなっていく。</p> <p>○天候により大きく行程が左右される。1人当たりの費用が高額になるなどの課題があり、8年度は二宮町が抜けるため、1市3町1村の実行委員会で課題を共有する必要がある。</p> | A (B) | <p>○参加する児童にとって遠方の同世代の児童や役員をはじめとする多世代との交流や、集団生活を学ぶことができる貴重な機会となった。</p> <p>○洋上という日常とは異なる場に身を置き、他市町村の生徒と交流を深めながら、自主性や協調性、他人を思いやる心を養う有効な機会として継続して実施する。</p> |

- ⑤ 小・中学生のふれあいキャンプや中学生のふれあいスキー&スノーボード教室を開催し、中学生が集団生活を通して交流と連携を深めながら、自然体験や団体規律などを修得する。

| 事業名 | 青少年ふれあいキャンプ、中学生ふれあいスキー&スノーボード教室 | | |
|---|--|----------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○青少年ふれあいキャンプはコロナ禍や人数不足で令和元年度来中止となっていたが、10人の参加があり開催することができた。</p> <p>○中学生を対象に日帰りで実施。募集定員30人に対し22人が参加した。コロナ禍以前は1泊2日で実施していたが、日帰り行程にすることで参加しやすくなった。</p> | <p>○夏休みの部活動や習い事等、児童・生徒のライフスタイルの多様化に伴って参加者を募ることが難しくなってきたが、参加児童の満足度は高い印象であるため、周知方法の工夫等を通じて参加者増に努めたい。</p> <p>○スキー・スノーボードの修得に繋がるのは良い機会であり、自然体験や団体規律を学ぶ良い機会となっているが、種目の性質上参加者同士の交流に繋がりにくい面もある。</p> | A (A) | <p>○参加者は少ないながらも、令和元年度ぶりに事業を実施することができたため、自然体験の機会を提供することができた。また、班分けや世代を超えて、全員で交流を深め、団体行動を体験できたことは、団体規律の修得に繋がった。</p> <p>○例年初心者が多く参加していることから、中学生にとって中井町では体験できない自然体験に繋がっている。</p> |

4 芸術・文化活動の促進と郷土文化や資源の継承

- ① 日ごろの生涯学習活動の成果を発表する場として、町民文化祭や公民館まつり等を開催し、文化芸術活動の促進を図る。

| 事業名 | | 町民文化祭、公民館まつり | |
|---|--|--------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○第51回町民文化祭をR7.11.1～2開催。文化団体の舞踊・ダンスなどの演舞や盆栽・書道・俳句竹細工の展示などで約200名が参加</p> <p>○第28回井ノ口公民館まつりをR8.2.15に開催、日頃の学習活動の成果を発表した。参加者350名</p> | <p>○出演・出展者及び来場者に偏りがあるため、誰でも楽しめるような魅力あるイベントとしていく。</p> <p>○公民館事業のサークル化の普及促進を図り、参加者・出展者の増加に努める。</p> | C (B) | <p>○日頃の文化活動を発表するよい機会となっている。</p> <p>○公民館まつりでは各団体が協力運営しているため、団体間の交流が深まった。</p> <p>○ゲスト出演者の趣向を変えマジックショーを実施した。</p> |

- ② 各種教室や講座を開催し、町民個々の文化活動を促進するとともに、文化団体連絡協議会への支援や指導者の育成に努める。

| 事業名 | | 新規団体への支援、文化団体連絡協議会支援 | |
|--|--|----------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>井ノ口公民館において、多様な講座・教室を実施した。</p> <p>一般向け 17教室 正月飾りづくり教室、陶芸体験など</p> <p>小学生向け 9教室 絵画教室、DIY教室など</p> | <p>○高齢化などの課題や住民ニーズを捉えた多様な学習機会の提供に努め、多くの参加が見込める魅力ある公民館事業をめざす。</p> <p>○加盟団体の高齢化に伴い、活動促進の強化、新規団体の加入等に努める必要がある。</p> <p>○公民館で実施している教室・講座を契機としてサークル活動に発展できるような事業を実施する。</p> | A (A) | <p>○生涯の各期にわたって誰もが学べ、人づくり、仲間づくりとなる生涯学習の場として多様な参加者を得られた。</p> <p>○町民文化祭、美・緑なかいフェスティバルに参加し活動発表の場とすることができた。</p> <p>○フェスティバルはステージ参加者の一般募集により、これまでにない団体の活動の場を提供することができた。</p> |

- ③ 学校教育や生涯学習の場など様々な機会を通じて地域の郷土文化や資源を後世に継承することに努める。

| 事業名 | | 中井を見て歩く、なかい文化財めぐりウォーキング、郷土資料館の活用 | |
|---|---|----------------------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○中学校の総合的な学習を開催した。</p> <p>OR7.11.22に町指定文化財や遺跡等をたずね歩き、文化財保護の意識を高める文化財めぐりウォーキングを開催した。参加者20人</p> <p>○中井の昔話や口頭伝承をテーマに町民文化祭特別展を開催した。 R7.11.1,2 来場者123名</p> | <p>○中学生の郷土文化に対する興味を引き出す内容にする必要がある。</p> <p>○参加者のアンケート結果や年度ごとの研究対象としている文化財に着目し、参加意欲をかきたてるコースを検討する。</p> <p>○郷土資料館の収蔵品の展示機会・保管方法について引き続き検討していく。</p> | A (A) | <p>○学校、地域と連携し、郷土文化のすばらしさを伝えていく。</p> <p>○参加者の健康増進を図りつつ、文化財保護の意識を高めることができた。</p> |

- ④ 五所八幡宮祭礼記録作成調査、文化遺跡等を巡るウォーキングの開催等により文化財に対する保護意識の高揚を図るとともに、デジタル郷土資料の情報更新や町内に散在する文化遺産の保存に努める

| 事業名 | | 町文化財指定物件補助事業、歴史散策コース道標設置・管理、震生湖の活用 | |
|--|--|------------------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○五所八幡宮祭礼の現状と歴史、文化的特徴について学術的に調査し明らかにすることを目的に調査委員会をたちあげ調査した。</p> <p>○町指定重要文化財11件に対し補助金を交付した。</p> <p>○なかい文化財巡りコースのうち、仙元コース内の道標3か所を修繕した。</p> <p>○鬼王段三郎の墓、井ノ口墓の前遺跡の除草、枝打ちを行った。</p> | <p>○町指定重要文化財補助金が一部の有形民俗文化財、無形民俗文化財に限定していたが、公平性の観点から補助交付のあり方を見直して25件すべてを対象としたが、補助申請が多くない。</p> <p>○道標の設置数、設置場所の全体把握に努める。</p> | B (B) | <p>○五所八幡宮祭礼記録作成調査委員会を開催し、町民向けの活動報告会を開催した。</p> <p>○道標の現地確認を行い、状態の悪いものから優先して修繕し改善に努めた。</p> |

5 スポーツの振興

① スポーツ推進計画に基づく諸施策の着実な推進を図る。

| 事業名 | | スポーツ推進計画の推進 | |
|--|---|-------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○スポーツ推進計画の基本理念である「スポーツで、町民も地域も元気に！里都町♡なかい」の実現にむけて、地域資源を活用したスポーツの普及・促進に務めた。 | ○地域に価値をもたらすスポーツとして、「する・みる・支える・学ぶ・稼ぐ」の5パターンがあるが、多様なスポーツへの関わりという意味ではまだまだ不十分な点がある。 | B (B) | ○スポーツを通じた交流人口の拡大、交流を意識したスポーツイベントの実施など、中井町の地域資源やポテンシャルを生かしたスポーツの普及促進に向けて推進を図った。 |

② 里都まちなかいスポーツイベントやニュースポーツ教室・大会を関係団体との相互連携により開催し、町民のスポーツへの自主的な参加の促進を図る。

| 事業名 | | 健康スポ・レク祭、ニュースポーツ教室・大会の開催 | |
|---|---|--------------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○健康スポ・レク祭は、各種団体に協力依頼をし、1,000名の参加を得てスポーツの交流を図るべく開催することができた。</p> <p>○自治会親善ユニカール大会は練習会も4回開催し、16自治会25チームの参加を得て地域の交流を深める大会を開催することができた。</p> <p>○昨年度より新種目として自治会親善モルック大会を開催しているが、雨天中止となった。</p> <p>○健康マラソン大会は、会場を野球場へ変更するとともに、大型ビジョンを活用し、選手への情報提供やゴールシーンの映像投影を実施した。</p> | <p>○天候不良による中止については、予備日を設ける等の意見もあるが、会場の確保、他のイベントとの調整など検討事項も多く、実施に至っていない。</p> <p>○自治会親善の2つ大会は、出場する自治会、参加者に大差がなく周知が十分でない自治会も散見され、事業の周知方法や自治会相互の親睦という趣旨の見直しを検討してもいい時期かもしれない。</p> <p>○近年健康マラソン大会においてコースや会場の変更を行っていることから、従来の運営体制では対応しきれない場面が生じている。このため、新たなコース・会場条件に即した人員配置の最適化や、安全管理体制の再構築が必要となっている。今後は、変更内容を踏まえた運営手法の見直しを行い、円滑かつ安全な大会運営の確立を図る必要がある</p> | A (B) | <p>○健康スポ・レク祭は、企画会議後の、調整に手間取り、関係各所との調整がスムーズにできなかった。次年度は早期の調整が出来るよう務める。</p> <p>○健康マラソン大会は、スポーツ推進員、地域活動振興員、スポーツ協会員が積極的に関与して大会を運営することで町民が主体的に参加できるしくみになっている。コース変更に伴う道路協議をスムーズに行い、当日も大きなトラブルなく開催できた。</p> |

- ③ スポーツ事業の実施や総合型地域スポーツクラブへの支援を行う。町内公共施設の予約システムを導入し、学校・社会体育施設やスポーツ施設の利便性の向上を図るとともに、町民ニーズに対応できるスポーツの機会の提供に努める。

| 事業名 | | スポーツ施設の利便性の向上とスポーツ機会の提供 | |
|---|---|-------------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○総合グラウンドの整地作業を年間委託し、グラウンド環境の維持向上に努めた。</p> <p>○学校体育館、グラウンド等、学校体育施設の一般開放を継続して行った。</p> <p>○夏季休業期間中の学校プール開放を33日間実施した。利用者982名</p> <p>○施設予約システムを3月から導入した。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブの準備団体として組織された「さとまちなみりょく」についても設立に至った。</p> | <p>○学校プールの開放について、県内市町村でも実施していない施設もあり、利用者の意向や施設の老朽化などを踏まえたプール開放の可否を検討していく必要がある。</p> <p>○今年度予約システムを導入し、窓口に来なくても予約支払が可能になった。しかし一部サービスはまだ調整中のため、手続き等進めていく。また、システムに合わせてスマートロックの導入を行った。操作の方法やシステムの情報の周知や案内を行い利用者の利便性の向上を目指す。</p> <p>○今年度団体の設立を行ったが、団体自体の組織力が十分でないことから、今後も助言、サポートが必要となる。</p> | <p>A (B)</p> | <p>○テニスコート人工芝用の砂の散布や運動場の草刈り、整地、スポーツ施設環境の向上に務めた一方、周辺住民に配慮した施設管理運営が対応しきれなかった。</p> <p>○施設予約システムを導入し、周知は今後も必要だが窓口での申請負担や鍵の貸し借りに来庁してもらう手間などを減らすことができた。しかしシステムの不具合や操作に慣れない部分もあるため、適宜対応する必要がある。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブの設立に至ったことから、ある程度の支援ができたものとする。</p> |

6 読書活動の推進

- ① 蔵書の充実を図るとともに、図書室や学習室の有効活用により町民一人一人の読書活動を推進する。

| 事業名 | | 蔵書の充実 | |
|---|---|----------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○改善センター及び井ノ口公民館図書室における蔵書の充実を図った。</p> <p>【購入数】 改善C 960冊 公民館 875冊</p> <p>【広域利用図書数】 (借受のみ)】 改善C 28冊 公民館 171冊</p> <p>【蔵書数】 改善C 21,097冊 公民館 26,900冊</p> | <p>○長期にわたり貸し出しのない本や破損した本の除籍に務めるとともに、新たに購入した本のスペースを確保する必要がある。</p> <p>○配架や展示に工夫を凝らし親しみやすくしやすい環境をめざす。</p> <p>○大活字本の収集をしていく。</p> <p>○夏場でも図書室内での水分補給が禁止されているなど、利用者にとって利用しにくい環境を一度見直しを行い、次年度から図書室の運用ルールの変更を目指す。</p> | A (A) | <p>○中高生向けコーナーを設け、広報誌「B(ビー)」を発行するなど、息抜きできる場所づくりや、若者に本に関心を抱いてもらえる取り組みを行った。</p> <p>○インターンシップ実習生や小学生の施設見学の受け入れを行い、図書の業務について説明を行い、</p> <p>○図書のSNSを開設し、それぞれの図書室の展示や取り組みについて積極的に情報発信をおこなった。今後も継続していく。</p> <p>○蔵書点検を行い、棚の整理や紛失本などの確認を行い、利用しやすい図書室の推進を図った。</p> |

- ② 小・中学校、こども園へ図書司書の配置を充実するとともに、ボランティアの活動などにより、生きる力を育む読書活動の推進を図る。

| 事業名 | | 図書司書の配置、図書ボランティアの活用 | |
|---|---|---------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○こども園、小・中学校の図書室へ図書司書を派遣して図書の充実を図った。小学校では月に1～2回程度、朝の読書タイムの時間に季節の行事や児童の興味関心に応じた本を選んで図書ボランティアによる読み聞かせを行っている。</p> <p>○改善センター、公民館の両図書室へ図書司書を常駐している。 改善C 水～日曜 公民館 月～金曜</p> <p>レファレンス件数 改善C 123件 公民館 335件</p> | <p>○第二次中井町子ども読書活動推進計画に掲げた取り組みを読書活動推進会議など開催し引き続き意見交換や情報交換を行い、園・学校・図書室などで推進していく必要がある。</p> | A (A) | <p>○図書司書の専門知識を活用し、図書ボランティアと協力しながら読書活動の取り組みを進めている。また、両図書室において図書司書を常駐化したことによりきめ細やかなサービス提供に図書室利用者から好評を得ている。</p> <p>○改善センターと公民館で司書不在日が重ならないようにすることで、利用者からのニーズになるべく応えられるようにしている。</p> |

- ③ 「読書の町 中井」を目指すため、11月3日を「中井町読書の日」と定め、ポスター、標語コンクール等の事業を実施し、町民の読書活動の推進を図る。

| 事業名 | | 読書活動の推進 | |
|--|---|------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○「中井町読書の日のごあいさつ表彰式」をR7.11.2に実施した。 標語 47点 ポスター 39点</p> <p>○社会教育委員の主催事業として、読書活動をメインに人や自然との出会いを通じ暮らしの中に学びを育むことを目的に里都まちブックピクニックを3月1日に中井中央公園 里都まちCafé前芝生広場にて開催した。 参加者：約400名</p> | <p>○新規利用者を取り込むためのさらなる広報活動の必要がある。</p> <p>○中井町読書の日（11月3日）にちなんだ事業は定着化してきているが、「読書の町、中井」を希求する通年での具体的な取り組みが実施できていない。</p> <p>○里都まちブックピクニックは、健康マラソン大会との同日開催で3回目を迎え、一定の浸透がみられるが、恒常的なイベントとして定着させるための取組が課題である。</p> | <p>B (A)</p> | <p>○学校を通じて募集チラシを配布したことにより、小・中学生の応募があった。</p> <p>○表彰された作品を表彰、装飾などを施し、展示することで自己肯定感を高め、次の作品への意欲や、読書への関心を深めることに繋がった。</p> <p>○里都まちブックピクニックでは、アンケート結果でイベントを通して本に興味を持ったという方が9割以上を占めた。</p> |

- ④ 改善センター及び井ノ口公民館の図書室においては、図書室の運用方法の改善により利用者の利便性向上を図るとともに、図書司書の配置によるレファレンスサービスの向上に努める。

| 事業名 | | 図書電算システムの有効活用 | |
|---|---|------------------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○図書電算システムを利用して来室しなくても資料情報が得られる方法の周知を行った。</p> <p>○一般書と児童書を分けた検索機能の追加や相互貸借で借り受けした未所蔵の書誌情報をダウンロードし予約可能にするなどの機能拡張した。</p> | <p>○パソコン環境に不慣れな層の情報格差を解消するデジタルデバイド対策が必要である。</p> | <p>A (A)</p> | <p>○インターネットからの予約数も安定しており、一定の効果が得られている。 R6：2,113件 R7：2,014件</p> <p>○町のHP経由で問合せがあった利用者の不明点などに迅速に対応し、システムの利用促進に務めた。</p> |

7 土曜学習事業の充実

- ① 幼児から小学6年生までを対象に、年齢に応じた英語活動、英会話体験をとおして、「なかいっ子」が楽しく英語に親しむ機会を提供する。

| 事業名 | なかいっ子学びの場 | | |
|---|---|------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○なかいっ子学びの場のなかで生きた英語を身につけるため英語活動・英会話に特化した学習を取り入れている。</p> <p>○クラスを分けることでレベルに応じた授業内容で学ぶことができる。</p> <p>全体の参加者数 43名</p> | <p>○年中から小学6年生を対象としているが、クラスによっては片方の会場に人数が偏っているのうま分散できるように通年でいろいろな媒体を利用して周知していく必要がある。</p> | <p>A (A)</p> | <p>○参加した小学生からは楽しく英語に触れることができたとの感想を得た。</p> <p>○2会場に分けたことでクラスによっては片方の会場に人数が偏ってしまったので、周知方法は検討する必要がある。その反面少人数だからこそ授業内容を手厚くすることもできた。</p> |

8 地域学校協働活動の推進

- 学校・家庭・地域が一体となり、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働するため、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進に努める。

| 事業名 | 学校応援隊事業 | | |
|---|---|------------------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| <p>○児童・生徒が安心して快適に学校生活を送れるよう学校応援隊による学校環境の整備（草刈り）を実施した。</p> <p>中井中学校：8月31日 参加者17名 中村小学校：10月18日 参加者12名</p> | <p>○学校応援隊の活動をもっと多くの町民に知ってもらうためにSNS等で周知を行ったが今後は、活動時だけでなく募集の案内も行っていきたい。</p> | <p>B (B)</p> | <p>OR7は中井中と中村小で2回の実施にとどまった。次年度は各学校に1回ずつ活動に入ることや、除草作業のみでなく、新しい応援の形を見出していき、隊員募集にも力を入れ、活動の幅を広げていきたい。</p> |

9 学校部活動地域移行の推進

将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、中学校部活動の地域移行のあり方について関係行政機関、学校及び町内関係団体等と連携を図りながら検討を進める。

| 事業名 学校部活動の地域移行 | | | |
|--|---|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○休日の部活動に専門性を有する指導員を配置し、教員とともに指導にあたることで、教員の負担軽減を図るとともに、生徒が専門的な技術指導を受けることを目的に町スポーツ協会を通じて4名による活動を行った。 | ○指導員として任用に至るまでの研修・面接等の過程が煩雑である。 ○地域移行に向けた協議会等の検討体制を整備し来年度から試行実施していく。 | B (B) | ○ソフトテニス（男・女）、卓球（女）、バレーボール（男）4部活動の指導員を雇用している。 ○来年度より、テニス部の地域移行を予定している。 |

10 社会教育団体との連携

- ① 社会教育関係団体の自主的な活動を促し、地域に根ざした活動と団体間の相互連携の強化を図り、各団体が共同開催する活動の推進を図る。

| 事業名 社会教育関係団体の支援・連携 | | | |
|--|----------------------------------|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○町内にある社会教育団体の活動の場の提供として、施設開放をおこなうとともに、公益上必要であると認めた団体に補助金の交付を行った。 | ○団体会員の高齢化もあり、会員の減少や活動内容の縮小がみられる。 | B (B) | ○団体間で事業の共同開催が可能かを検討しているが、具体的な成果が見出せていない。 |

- ② 社会教育関係団体の指導養成を支援し、活動の活性化を図る。

| 事業名 社会教育関係団体の指導養成支援 | | | |
|---|---|----------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○社会教育関係団体に対する町独自の指導者養成研修の開催はできていない。既存の町の講演会及び県等の社会教育や人権などの指導者研修会を案内し、研修機会を提供することで指導者養成に努めている。 | ○社会教育関係団体等の活動の充実をめざすとともに、指導者養成研修等を通して団体指導者を増やし、地域コミュニティの基盤をつくる。 | B (B) | ○可能な限り県の研修等に社会教育委員等の参加を促し指導者養成の一助としている。 |

11 井ノ口公民館の活性化

地域住民にとって身近な学習拠点として、また、文化活動を通じた世代間交流の場としての役割を果たすとともに、地域住民全体が気軽に集えるコミュニティサービスを総合的に提供することに努める。

① 住民ニーズや地域の実情に応じた多様な学習機会の提供を図る。

| 事業名 | 各種講座・教室の開催 | | |
|---|---|----------|---|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○住民ニーズを把握するため、昨年度に引き続き公民館ロビーにアンケート箱を設置し講座参加者へのアンケートを実施した。 | ○アンケート調査を引き続き実施し、住民ニーズを捉えた事業を実施するとともに、参加者の多い教室・講座を継続する。 | A (A) | ○アンケート結果で評価の高かった講座や要望のあった中井町に関する講座の実施につなげた。 |

② コミュニティ活動の高揚と地域連帯感の促進を図る。

| 事業名 | 発表の機会や場の提供、各種団体との協働による事業開催 | | |
|---|--|----------|-----------------------------------|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○活動団体に展示スペースの展示期間を割り振り、作品展示機会を提供した。公民館まつりを開催することにより芸能発表、作品展示の機会を創出した。 | ○減少傾向だった公民館利用団体を、公民館まつりや公民館講座をきっかけとした新規団体がうまれてくるよう努めていく。 | B (B) | ○R7は公民館まつりのゲスト出演した団体が公民館利用団体となった。 |

③ 図書室の広域的相互利用の推進と読書意欲の涵養を図る。

| 事業名 | K L - N E T（相互貸借管理システム）の活用、農村環境改善センター図書室との連携による図書室の活性化 | | |
|---|---|----------|--|
| 今年度の取組状況 | 課題の整理 | 評価 | 自己評価 |
| ○電算化の利点を生かし、農村環境改善センター図書室と一体で蔵書の管理をおこなうことで、公民館図書室で改善センターの蔵書の検索や予約ができる体制を提供した。 | ○蔵書保有数に限りがあるため、適切に除籍を実施し購入とのバランスをとる必要がある。また、購入できる冊数にも限りがあることから、他の図書館から取り寄せ、顧客のニーズに対応することが重要である。 | A (A) | ○蔵書数適正化を図るため、除籍を積極的に行い、各書棚の均衡のとれた蔵書に努めた。 |

- 今後、少子高齢化が進み町の人口が30年後には半減していくという試算が示されている。やがて来る人口減少に対して町でも公共施設の活用・開放や地域学校協働活動、部活地域移行、スポーツ事業の実施や読書活動等をはじめ、先を見据えた地域の活性化への一層の取組に期待する。
- 学校を含めた公共施設を広く町民に開放し、地域の各活動に貢献している。また、総合グラウンドの施設改修や、施設予約システムの導入により、施設の維持管理や利便性の向上が図られたことから、施設利用者の増加を期待する
- 各図書室より、定期的に本の紹介がSNSで発信されている。季節や社会情勢、作者に関する特集など、新しい本を増やすだけでなく、蔵書を活用して本の魅力を伝える工夫がみられる点は、魅力ある図書室づくりの一環として評価できる。
- 郷土文化や地域資源の継承に向け、調査・体験・情報発信を組み合わせた取組が効果的に実施されており、地域への理解促進と関心の向上に寄与している点は評価できる。今後のさらなる展開を期待する。
- 町で作成した「公共施設長寿命化計画」に基づき、各施設ともに長寿命化に向け、町民の安全確保と利便性の向上のため、計画的な施設修繕及び必要に応じて迅速な対応を図ることを求める。

【学校教育】**1 「確かな学力」を育む教育の充実（生きる力の育成）**

本町では「なかい授業づくりスタンダード」に基づき、授業改善を充実させるため授業づくり委員会を通して、ICT機器を効果的に活用した授業改善を中心に研究し、各校で問題解決的な展開の授業を実施している。工夫、改善された各授業によって児童・生徒にとって充実した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を創り出していると考え。そのことが「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋がっていくものと考え。

指定研究事業については、園・各校において充実した研究がなされていたと考える。2年間の成果と課題を見据えて、令和8年度の研究のまとめに向かい更なる研鑽を望む。

また、学力向上対策会議において、毎年4月に実施される全国学力・学習状況調査の結果や、各校の教育及び教育施策の成果と課題を副園長・教頭会で把握・分析し、その改善を図っている。今後も確かな学力の定着と向上のため、継続して実施していただきたい。今年度、各学校、園の研究授業の日程を教育委員会で取りまとめ、共有したことで教諭や保育教諭が互いの授業や保育研究会に参加しやすい環境を整えることができている。

園・小・中の学びの連続性を意識した一貫性のある教育の推進に向け、様々な研究会・研修会で、校種を超えて担当者が参加できることは、相互連携をより充実させ園・小・中の学びの連続性を深めることに繋がっていると考え。

この取組は本町の教育活動の大きな柱と考えるので、今後も継続実施していただき、さらなる充実を図って欲しい。

2 「豊かな心」を育む教育の充実（生きる力の育成）

現代社会は、多様な価値観にあふれており、そのため児童・生徒においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育むことが強く求められている。児童・生徒が主体的に多様な価値観に向き合い、人権意識を高められるよう「考え、議論する道徳」のさらなる充実が望まれる。

また、道徳においては、全教育活動を通して実現することが求められていることから、教職員全体の指導力の向上を図るため、研修会や講習会への参加機会を増やすことが必要と思われる。

本町では、いじめ、不登校、問題行動等への対応については、本人と保護者、担任教諭等のニーズに應えるため、スクールカウンセラーのほか、スクールソーシャルワーカー、教育相談コーディネーターを配置し、個別相談やカウンセリングを実施しているほか、学校に行けない子どものために教育支援センターも設置して、専門的な相談活動に取り組んでいる。

本年度、より適切な相談活動を進められるようスクールカウンセラーのほか、スクールソーシャルワーカー、教育相談コーディネーター、教育支援センターとの連携を密にし、互いの情報を共有することを目的に連絡会の開催や情報共有の場の設定を行い、連携して相談活動に取り組んでいることは大変評価できる。

現在、重大事態に繋がる重篤な事例はないとのことだが、多少なりとも悩みを持つ児童・生徒がいることも事実である。今後も、いじめや不登校、問題行動等への対応や未然防止に向け、引き続き、専門員の知見を活かし、問題解決に向けた活動を関係者の連携を密に取りながら進めて欲しい。

また、いじめの未然防止、早期発見・早期対応のため、いじめアンケートやミニ点検を継続していただき、学校、保護者、地域の連携を密にすることで校外も含めた問題行動等に対する情報収集とその対応に努めて欲しい。

3 「健やかな体」を育む教育の充実（生きる力の育成）

幼児・児童・生徒の心身が成長していくなかで、健康3原則である「食事・運動・睡眠」を意識しながら、規則正しく生活していくことは、健康で活力ある生活を送るために重要な要因であると考えます。また、生活実態調査の実施から生活改善啓発資料の発行を行い、子どもたちに自らの生活の見直しを指導していることはとても有意義なことである。

生活改善啓発資料では伝わりきらない「運動の習慣化」を、園・小・中の連携を視野に入れ、園・学校生活の中でも指導できるような仕組みづくりをしていただきたい。

学校給食の公会計化は、子育て世帯の経済面での大きな支援となり、本町の子育て支援事業や定住対策事業としても評価されるものと考えます。

また、学校給食の提供については、栄養職員が他町と併任となっているものの、連携を密にすることで食材や栄養面等適切な献立作りが行われており、子どもたちの健康維持や体力増進に大きく寄与している。今後も、給食の時間や給食メールにより、子どもたちや保護者に栄養バランスの良い食事の大切さなどを指導する食育を、継続実施して欲しい。

4 国際社会で活躍できる人材の育成（英語教育の充実→学習指導要領関連の重点課題として）

小・中学校の連携を意識した中で一つの取組として、外国語指導助手（ALT）を含めての授業参観と研究協議を実施していることは英語の授業づくりをより推進するため、大いに評価できる。また、中学校で小学校の外国語指導助手（ALT）が授業補助に当たる取組も、学びの連続性を教師だけでなく児童・生徒も意識でき、子どもたちの成長にとって有意義なものである。

また、こども園での英語あそびの活動や小学校の日常的な外国語指導助手（ALT）とのコミュニケーションの機会の増加は、授業以外でも英会話によって楽しみながら意思の疎通ができる機会となっている。このことは子どもたちにとって大きな喜びを味わう経験となり、その言語で生活する人々の日常まで興味・関心が広がることが期待できる。

ぜひ、これらの活動を大事にし、子どもたちが主体的に英語を使ってコミュニケーションを取れる機会を増やして欲しい。

本町での学びが、英語圏の国だけではなく、国際社会へ目を向ける大きなきっかけとなることを大いに期待したい。

5 情報社会を生きる児童・生徒の育成（情報教育の充実→学習指導要領関連の重点課題として）

プログラミング教育の充実を図るためには、教員のプログラミングへの理解度を高め、指導力の向上に努める必要がある。加えて学習は、アプリケーションプログラムや教科書のデジタルコンテンツを活用して指導していることから、子どもたちの習熟度を上げるためには、教員がアプリケーションプログラムを熟知している必要がある。また、生成AIなど、新たな技術の授業での活用に向けた教員への研修の充実が望まれる。

ICT支援員が学校訪問する機会を増加できたことは評価できるが、新たな技術に対応するため、必要に応じてアプリケーションプログラムを提供するシステムエンジニアを補助員（チームティーチング）として雇用することを検討することも望まれる。先進事例等を参考にしながら推進していただきたい。

また、他の教員との連絡調整や蓄積された情報を他の教員と共有することは、効果的な授業づくりにとって非常に有効であると考えられるため、本チャットシステムを積極的に有効利用していただきたい。

6 教員の資質向上・支援の推進（学習指導要領関連の重点課題として）

価値の多様化、情報の氾濫、社会の速い変容速度等、このような中で、子どもたちは今まで以上に生き抜く力を必要としている。多岐にわたる子どもたちのニーズに応えるためには、教員の指導力の向上は必要不可欠である。積極的に研究・研修の場を設けていくとともに、適切な指導助言をお願いしたい。

本町では、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現するため「なかい授業づくりスタンダード」による授業づくりを推進している。この取組は、子どもたちの成長のみならず、教員の指導力向上にとっても大いに役立つものとする。今後も研究・研修にとらわれず、日常的に推進していただきたい。

教員への支援では、より良い教育を進める上で、指導力の向上だけでなく、教員の多忙感の軽減に取り組み、労働環境の改善に努めていただきたい。そのためには、教職員の事務量の軽減やICTの活用をさらに進めるための専門員による支援体制の確保、さらなる支援をお願いしたい。

また、学校においては、校内事故防止や不祥事防止に対する研修を進めているが、教職員の不祥事案件が数多く発生している。このような状況を踏まえ、さらなる綱紀の保持の徹底を図る必要がある。県教育委員会で発行している不祥事防止職員啓発・点検資料を活用するなどし、定期的に啓発・点検をするよう各校・園へ働き掛けをお願いしたい。

7 「地域とともにある学校づくり」の推進（県教委 学校運営の重点として）

スクールコーディネーターの活用により、学校支援ボランティアの連絡・調整が円滑に進められていることは、学校への地域による支援が充実していると評価できる。このことにより学校と地域との連携が密になることは、今後の学校づくりに大きな一助となると考える。

教育委員会だよりのカラー化により、デザインも工夫され、見やすく読みやすい紙面となっている。また、ホームページを定期的に更新し、内容の充実を図るなど、地域への積極的な教育委員会の事業や、園・学校の情報の発信が地域の園・学校教育への関心を高め「地域とともにある学校づくり」の一助となっていると考える。

コミュニティ・スクール制度の導入により、学校運営協議会では、委員や保護者等の意見が学校へ提案できており、その取組が学校、地域、保護者が連携・協力した学校運営に繋がっていると思われる。今後も連絡調整会議を含む年4回の運営協議会をより充実させ、「目指す子ども像」に向けた具体的な取組をさらに検討し、具現化していただきたい。

8 「ともに生きる社会」の実現に向けた支援教育の充実（県教委 学校運営の重点として）

中村小学校におけるインクルーシブ教育の成果を町内の園・学校で積極的に共有し、インクルーシブ教育に対する理解を深め、本町の児童・生徒が、障害の有無に関わらず、ともに学ぶ教育体制の充実につながっている。介助員や学習支援者を各校に配置して、支援教育に取り組んでいることと合わせて、さらなる支援教育の充実を図っていただきたい。これらの取組は、学校間での情報共有が重要である。効果的な指導・支援に向けて情報の引き継ぎが円滑に行えるよう、特別支援教育ソフトを導入したことは評価できる。

また本町では、外国につながる児童・生徒が増加しており、園・学校現場では、言語や宗教、文化の違いに関しても適切な対応が求められていることから、様々な人的リソースを活用し、保護者を含めた支援の充実を図っていることは評価できる。今後も継続して配置していただきたい。

さらに、小学校入学前の幼児と保護者が学校生活を円滑に始められるよう、新たに「なかまプレスクール」を実施し、支援に繋がっていることは評価できる。

9 安心・安全な園・学校づくりの充実

近年、南海トラフを中心とした大規模災害の発生が懸念されている。災害の規模によっては、保護者への引き渡しも難航するとともに、教職員自身も被災者ということが想定されるなかで、学校は避難所として避難住民を受け入れる状況も発生することが予想される。改めて町の防災計画とすり合わせをするなど、園・学校の危機管理体制の一層の強化と関係機関や団体との連携・協力体制の確立を推進し、不測の事態に備えて欲しい。

安全・防災教育担当者研究会における取組は、園・学校が一体となった防災安全体制や安全教育の充実に繋がるもので、今後さらに重要なものとなってくると思われる。

また、安全対策として実施されている登下校時における地域の方や学校ボランティアの見守り活動や交通安全対策としての、横断歩道・路側線等の改修や設置工事などは、学校、地域、警察、道路管理者等の関係機関と密に連携し、継続的に実施していただきたい。

10 こども園での幼児教育・保育の充実

こども園での園児全体の様子を捉えたドキュメンテーションと個の園児の様子に視点を当てたエピソード記録の作成・活用は、教育保育の内容を客観的に振り返り、教育保育の質の向上に大いに役立つものとする。子どもの学びを捉え、充実した教育保育を実現していくために、今後も継続的に取り組んでいくことを強く望む。

「学びの連続性プログラムの研究の推進」は、0歳から5歳児の心身ともに大きな発達をする段階で、この時期の保育・教育は、生涯にわたる人間形成の基盤となる生きる力を育成するスタートプログラムとなる。さらなる研究の充実を期待したい。

さらに、小学校へのスムーズな接続ができるよう、保育教諭と小学校教諭がともに「架け橋プログラム」の検討を行うことは、相互理解が進み、園・小の連携教育にとって、大変重要なことである。こども園の年長の担任や小学校低学年の担任のみならず、全ての保育教諭と小学校教諭がこのプログラムの理解を深め、学びの連続性を意識した教育実践の推進を今後も積極的に取り組んでほしい。

【社会教育】

1 生涯学習の総合的な推進

町民一人一人が生きがいとゆとりを持てる生涯学習社会の実現に向け、町民のニーズに応えるには何が必要かを把握し取り組む必要がある。

町民1スポーツと言われ盛んに開催されていた各種スポーツ大会も、若い世代が減少高齢化が進み以前のような大会が無くなって来た今、老若男女問わず参加できる種目が望まれ、ユニカールやモルックなど体力に左右されない種目の開催は歓迎する。ただ、このようなニュースポーツと言われる種目は内容が分からず食わず嫌いな一面がある。PRの工夫と柔軟な運営で一人でも多くの町民が参加できる様にして頂きたい。

公共施設については、利用する町民が安全で安心して過ごせる空間でなければならない。中村下地区においては中村下会館が閉館し、今後高齢化が進む中、徒歩で行ける範囲に憩える場所が欲しいところである。中・長期計画の中での改善を求む。

2 豊かな人間づくりと学習環境の充実

心豊かで周りにも気遣いが出来る豊かな人間関係づくりを推進するためには、行政・地域が一体となって取り組む必要がある。公民館活動の様々な講座や教室はより多くの人々が興味を持ち参加しようと思えるような事業が望まれる。正月飾りづくりや手打ちそば体験など、地域人材による講座や教室は良い事業であり継続実施を求む。

PR活動にも一工夫をしより多くの人々が交流の場としても参加してもらえる教室となるよう期待する。

人権講演会については、タイトルが重く引いてしまうような感がある。自己評価にもあるようにテーマの選定、開催日など再検討を行い募集方法にも工夫を重ね高齢化社会に向け、より多くの町民に参加してもらえる事業となるよう期待する。

2 豊かな人間づくりと学習環境の充実

心豊かで周りにも気遣いが出来る豊かな人間関係づくりを推進するためには、行政・地域が一体となって取り組む必要がある。公民館活動の様々な講座や教室はより多くの人に興味を持ち参加しようと思えるような事業が望まれる。正月飾りづくりや手打ちそば体験など、地域人材による講座や教室は良い事業であり継続実施を求める。

PR活動にも一工夫をしより多くの人交流の場としても参加してもらえる教室となるよう期待する。

人権講演会については、タイトルが重く引いてしまうような感がある。自己評価にもあるようにテーマの選定、開催日など再検討を行い募集方法にも工夫を重ね高齢化社会に向け、より多くの町民に参加してもらえる事業となるよう期待する。

3 青少年の健全育成と社会参加の推進

表彰規定の見直しで、大会などでの優秀な成績者を表彰の対象としたのは評価できる。従来の子童・生徒の善行に対する表彰も含め褒められた事によりやる気を起こさせるものであり継続を望む。地域・諸団体にも情報を求め一人でも多くの児童が表彰されることを期待する。

少子化や子ども家庭の生活スタイルの変化で地域のイベントへの参加者も減少、地域の大人たちとの触れ合いも減少する今、『子は地域の宝』の意識が薄れつつある。

『花いっぱい運動』の中学生ボランティア活動は地域の人と関わり合いが持てるよい機会と考えるが、2年連続で参加者が居なかったことは残念である。花植栽だけではなく参加者の目を引く物と抱き合わせを検討し、今後の事業継続に期待する。

青少年の健全育成と非行防止は地域ぐるみの永遠の課題といえる。各自治会とも連携を取り町一体となって強力な推進を望む。

また、青少年育成の集いは誰をターゲットにした講演会なのか演題に合った募集方法を検討、実りのある講演会を望む。開催日に関しては教育課と連携を取り決定を望む。

健康スポ・レク祭や戸沢村との交流事業に中学生のボランティア参加を募ることは評価できる。学校、行政、関係団体が事前打ち合わせを密にして、子どもたちが楽しく参加できるようにする事が望ましい。今後の参加者増に期待する。

戸沢村との交流会は長年続いてきた生活環境の違う子どもたちとの交流事業で、町子連がなくなった今、役員OBなどに協力を求め子供たちが楽しい思い出を作れるような継続を望む。

青少年ふれあいキャンプの再開催は評価します。自然の中での生活で協力・協調性が生まれ、普段体験できないことが心身のリフレッシュにも繋がると考えます。

開催日の精査設定で多くの参加者が出ることに期待します。

4 芸術・文化活動の促進と郷土文化や資源の継承

町民文化祭200名、公民館まつり350名と昨年とほぼ変わらぬ参加者数ではあるが、ゲストショーの実施など工夫間みられる。今後も発表する人、見に来る人が一緒に楽しめる場となることに期待する。

郷土文化や資源は絶やすことなく後生に継承することが重要で、工夫を重ね子供たちが興味を持ち積極的に参加するように仕向け、今後参加者が増えることに期待する。

5 スポーツの振興

レクリエーション的なスポーツイベントは体力に関係なく出来、地域間の交流と親睦を深めることに有効と考える。健康スポ・レク祭もより多くの人に参加できる種目の選定を望む。

健康マラソン大会では今年度よりメイン会場を野球場へ変更し野球場が持つ機能を使い参加者、応援者、見学者が目でも楽しめる内容としたのは評価できる。開催要項の変更時は特に参加者が安全に競技を楽しめるように計画段、取りをするのが望ましく次回開催に向け各協力団体と情報や意見を共有しより良い大会となることに期待する。

町営プールのない中井町では、学校施設を有効に活用し利用者に提供すると共に夏休み期間中はテント設営など暑さ対策も必要と考える。老朽対策含め検討を望む。

予約システムの導入で利用者、窓口両者の負担軽減は評価できる。

6 読書活動の推進

蔵書の充実評価します。今後も見直しにより読者の希望に沿った入れ替えを望みます。また、中高生向けコーナーの設置や広報誌の発行など子供たちが気軽に来れる場所作りなど諸施策について評価します。

『読書の町 中井』に向けさらなる増加を期待する。

7 土曜学習事業の充実

土曜学習により子どもたちの学習意欲や習慣が図られるので、継続事業として取り組むことを望む。また、子どもたちの休日の過ごし方も多様化しているので、参加出来なかった子どもたちに対しても参加できるような工夫を求める。地域学校協働活動の推進については、教員の働き方改革などで休日の活動がより難しくなることが懸念される。PTAだけに頼らず、地域が一体となり子どもたちの成長を見守る為にも環境づくり活動の推進と充実を求める。

中井っ子のすこやかな成長のため更なる活動期待します。

8 社会教育団体との連携

学校、家庭、地域が一体となり、地域の子どもたちの成長を支える活動はとても良い活動であるが、地域応援隊の知名度がまだまだ低く学校周辺の草刈りなどPTAで行っていると思っている人が多くPR不足と考える。広く公募し特に子育てを終えている人や仕事を卒業されている方々にも協力を求め、町が一体となり進めていく事が望ましいと考える。今後の更なる事業拡大に期待する。

9 学校部活動地域移行の推進

学校教職員の負担軽減対策としては有効と考えるが、その反面外部指導員の負担が想定される。主役は生徒であることを再認識し、教育委員会、学校、関係団体の連携を密にし、子供たちへの支援を図るとともに、長期的なビジョンをもって取り組まれることを望む。

10 社会教育団体との連携

少子高齢化の影響か各団体の活動にも活気が見えず、新しい人材発掘が急務である。団体相互の連携を強化するためにも行政の関与も必要と考える。団体間の情報交換など各団体との話し合いの場を行政にきっかけづくりを期待する。

11 井ノ口公民館の活性化

公民館活動においては、地域の活動拠点としての位置づけから地域の人たちが気軽に参加できる受け入れ体制を構築していくことが望ましく、住民ニーズのアンケート収集による講座の開設を評価する。

12 その他

社会教育施設について、『公共施設長寿命化計画』に基づき、解体となった中村下会館の代舎も含め、居住地近辺に活動の場を設けられないか、町民の利便性を考慮し、計画的な改修を求める。

3 本年度の主要事業についての点検・評価

令和7年度の主要事業

○教育委員会の主要事業を対象とし、13事業に対して事業評価を行いました。

各事業に対し「妥当性」、「達成度」、「効率性」の3項目を5段階評価し、評価の合計点を総合評価として、A、B、Cの三段階評価によりランク付けをしました。

※ ()内は、前年度の評価を表しています。

※ 目的等は別紙主要事業点検評価表を参照。

学校教育関係

| 事業名 | 事業費(決算) (千円) | 内容 | 評価 |
|-------------------|-----------------|---|----------|
| 教育ビジョン策定事業 | 2,783 | 町民と共に、どんなに社会が変化しても変わらない価値があるもの、いわゆる「不易」を大切にしつつ、社会の変化にしなやかに対応する必要があるもの、いわゆる「流行」を見極めながら、明日の中井を担う人づくりを進めるために総合的な指針となる「なかい教育ビジョン」を策定した。 | A (-) |
| 外国人講師設置事業 | 9,988 | ALT(外国語指導助手)を小・中学校に配置し、コミュニケーション能力の向上や国際理解を深めることで英語教育の充実に努めた。 | A (A) |
| 学校生活支援事業 | 12,534 | 学習・生活面にサポートが必要な児童・生徒に対し、学習支援者・介助員等を配置し、教員が児童・生徒と向き合う時間を確保できるようサポート体制の充実を図った。 | A (A) |
| 外国につながるの児童・生徒支援事業 | 6,822 | 外国につながるの児童・生徒に対して、有償ボランティアを活用した日本語学習など、必要なサポート体制の充実を図った。また、通訳者の派遣依頼をすることで、外国につながるの児童・生徒の保護者との面談等に際し、円滑な連絡・相談体制の充実を図った。 | A (A) |
| 部活動指導員設置事業 | 1,437 | 中学校と地域の連携により、休日の部活動に地域人材を活用した指導員を配置し、教員の働き方改革を推進するとともに、段階的な部活動の地域移行を推進するための体制づくりを図った。 | B (B) |
| 学校環境整備事業 | 57,437 | 中村小学校のEVリニューアル工事や井ノ口小学校のアスベスト撤去工事、また次年度に行う屋内運動場空調設備設置等工事に向けての実施設計など、施設整備を計画的に進め、安全で快適な学習環境の向上に努めた。 | B (B) |
| 情報教育事業 | 21,579 | ICTを活用した情報教育を推進するため、児童・生徒一人一人がICT端末等を効果的に活用できる学習環境や授業の充実を図った。 | B (B) |
| 学校給食費無償化事業 | 35,822 | 次世代を担う子どもの成長と子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、小・中学生の給食費を完全無償化した。 | A (A) |

社会教育関係

| 事業名 | 事業費（決算） （千円） | 内容 | 評価 |
|--------------|-----------------|--|----------|
| 読書活動推進事業 | 17,524 | 豊かな人間性と確かな生きる力を身に着けるため、両図書館へ図書司書資格を持った読書活動推進員を配置し、レファレンスサービスの充実を図っている。 読書活動推進のためポスター・標語のコンクール及び表彰式を実施し86点の応募があった。 | A (A) |
| 文化財保護事業 | 2,833 | 町内に点在する町指定重要文化財や遺跡等をめぐる健康増進を兼ねた事業の実施により文化財保護の意識を高めた。 3年間の計画で大学教授や学芸員など専門家による五所八幡宮の五所八幡祭礼記録作成調査委員会を組織し、祭礼時の実地調査、祭礼関係者からの聞き取り、神社などが所蔵する資料調査を行い、年度末に町民向けの調査活動報告会を開催した。 | A (A) |
| 生涯学習施設建設事業 | 180,907 | 生涯学習施設建設事業について、これまで町民の学習・文化・スポーツ活動の場として、また、子どもから高齢者や障がい者、外国人など多世代・多文化の人々が集い、互いの活動や交流をとおして憩える拠点と施設の整備に向けて検討を重ねて今年度基本設計及び実施設計を策定いたしました。しかしながら、議会や町民から事業の進め方や計画内容に対し、慎重なご意見や再考を求める声が数多く寄せられ一旦立ち止まり、今後事業のあるべき姿を検討していくこととなった。 | B (一) |
| 防球ネット設置事業 | 11,550 | 総合グラウンド運動場の機能向上、利用者及び周辺の安全確保のため防球ネット（H=10m）を約120mに渡り整備した。 | A (一) |
| 施設予約システム導入事業 | 5,005 | 施設ごとに異なっていた運用ルールを統一し、24時間申請可能、来庁不要、キャッシュレス決済等の利用者の利便性の向上や受付や台帳のシステム化、会計処理の軽減等の職員事務の効率化が図れた。 | A (一) |

1 学校教育関係

学校環境整備にかかる事業は、学校施設の経年劣化に伴い、安全面や機能面での不具合を引き起こし、子どもたちの学習環境に大きな影響を与える。また、地域の避難所としても指定されていることから、地域防災機能の強化の観点からも施設の老朽化対策からも取り組む必要があると考える。新たに策定された「なかい教育ビジョン」に示されている教育施設に関する児童・生徒の意見や教育懇談会での意見を具現化できるよう教育動向や地域の実態に応じた計画の充実・見直しを図ってほしい。

本町の小・中学校で学校給食費の無償化事業は、子育て家庭の経済面での大きな支援となり、町の子育て支援事業や定住対策事業としても大いに評価できる。

学校生活支援事業や外国につながる児童・生徒支援事業、部活動指導員設置事業への取組は、地域の理解と協力が不可欠であり、また人材を確保する難しさもあると考えるが、教職員の働き方改革を推進し、教職員が児童・生徒と十分に向き合う時間を確保できるよう、スクールサポートスタッフや介助員、学習支援員、日本語指導員、部活動指導員等積極的に人的配置の拡充を図り、さらなるサポート体制の充実を図っていただきたい。

ぜひ、他の主要事業とともに、これらの事業を継続・拡充し、子どもたちの教育環境をさらにより良い方向へと改善できるよう、ご尽力いただきたい。

2 社会教育関係

町民一人一人が生きがいとゆとりをもって充実した生活を送るには、生涯学習の推進が重要である。少子高齢化が進む中、常に町民ニーズを把握し計画することが望ましい。

『自治会親善モルック大会』が雨天中止となった事は残念であるが、次年度多くの自治会の参加を期待する。

各図書室の蔵書がなされたが今後も読者ニーズに沿った蔵書を行い町民の読書習慣を向上に期待する。

◎ 終わりに

○ 本年度策定された「なかい教育ビジョン」は、今後10年間の中井町を見据えた教育施策の総合的な指針を示している。具体的な施策及び事業は、「教育大綱」及び「中井の教育」に位置付けることから「中井の教育」は、「なかい教育ビジョン」の基本理念を達成できるよう、これからの時代に適応できる新たな理念を明確に打ち出していきたい。

○ 点検・評価結果に基づいて次年度の計画を立て、事業内容や教育の尚一層の充実に努められるよう期待したい。教育に期待される役割を、一つ一つしっかりと果たしていくことができるよう学校教育・社会教育の振興に向けて総合的な推進を図られたい。

○ 急激な少子高齢化、人工知能の飛躍的な進化、グローバル化の進展等子どもたちを取り巻く社会情勢の変化の速度は加速度的に速くなっている。このような社会情勢にあって、子どもたちには、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが望まれている。そのためには子どもたちを支える大人たちが、「不易」と「流行」を十分に見極める力を持ち、支援と教育を進めていく必要がある。

○ 点検・評価結果に基づいて次年度の計画を立て、事業内容や教育の尚一層の充実に努められるよう期待したい。教育に期待される役割を、一つ一つしっかりと果たしていくことができるよう学校教育・社会教育の振興に向けて総合的な推進を図られたい。

今後も、本町のすべての人々が、心豊かに自信と誇りを持って生活できるよう、学校教育・社会教育共に力を合わせて町民をサポートし続ける教育委員会の取組に期待したい。

外部評価者 森 眞一
根津 憲一



中井町教育委員会点検・評価報告書

令和8年6月

中井町教育委員会

〒259-0197

神奈川県足柄上郡中井町比奈窪56番地

TEL 0465-81-3906

FAX 0465-81-5145